

解題・翻刻

高橋善一の軍事郵便について

小田嶋恭二

1 高橋善一の略歴

高橋善一は、大正六年（一九一七）四月八日岩手県和賀郡藤根村藤根（現在の北上市和賀町藤根）に農家の次男として生まれる。

兄弟は兄、弟、妹二人の計五人である。兄は早死、弟は海軍に所属し昭和一九年一月太平洋上で戦死している。家族は両親、祖父母を含め八人で、約四ヘクタールの田畑を所有する農家だった。父は土方の請負をし、残った家族が主に耕作をしていた。昭和一七年、再召集の前後に祖母と母が相次いで亡くなった。藤根高等小学校を卒業後、補習科から高峯（高橋峯次郎）に教わった。

善一が兵役に従事した期間は、一回目は昭和二年二月一日から一六年一月一二日まで（南支従軍）、二回目は昭和一七年四月八日から昭和二〇年九月四日まで（北支従軍）の二回であり、何れも近衛歩兵第三聯隊第七中隊である。

一回目は現役兵として、昭和一四年一月三〇日宇品港を出帆し広東を経由し南村着、同地警備をはじめ翁英作戦、賓陽作戦、江南作戦に参加する。昭和一四年二月二〇日歩兵上等兵となる。昭和一六年一月三日東京芝浦上陸、同二日満期除隊。その後、農業を手伝うかわら藤根村青年訓練所へ指導員として行った。

二回目は昭和一七年四月八日臨時召集され、第五二二八部隊五十嵐隊に属し弘前から宇品港を出港し、韓国の釜山港に上陸、山西省洪洞の警備。同年八月一日兵長、昭和一八年二月一日伍長、昭和一九年二月一日軍曹。昭和二〇年六月三〇日門司港上陸、東部六三部隊西山隊、利

根二七七〇九部隊島田隊、第二二六〇三部隊配属後、九月二日復員している。この間昭和一八年一月には急性大腸炎のため野戦病院に、また昭和一九年七月には赤痢のため臨汾陸軍病院に入院している。

高橋善一は、一時除隊期間を除いても六年八カ月もの長期間軍隊生活を送ったことになる。二〇歳で軍隊に入隊し、終戦後の昭和二〇年九月の除隊時にはすでに二八歳となり、青春時代が終わっていたことになる。

復員の翌月の十月に高峯の世話で結婚し、その後は農業に従事する。「戦争で身内の人とか部落の人が亡くなったが、戦争のことは何も考えないで生きてきた。意識はしていないが自分の戦争体験を人前で話すことは今までに全然なかった。」と語っている。

2 高橋善一の軍事郵便

今回翻刻した善一の軍事郵便は全部で六七通（うち本文なし一通含む）。これを編年で整理したのが別紙一覧表である。編年に当たっては、日付と消印に依ったが、ない場合は内容から推定した。発信時の所属は郵便に記載のとおりである。形式ははがきと封書に分類し、軍事郵便には○を付した。内容欄には、参考のため適宜要約と抜粋文言を記した。なお、同郷の出征兵士の名前については『真友』を参考にした。

昭和一二年一二月から一六年一月まで前期の手紙には、東京赤坂の近衛歩兵第三聯隊第七中隊に入隊し、軍隊生活の第一歩を踏み出したことを皮切りに、東京の兵営生活、富士裾野や習志野演習のこと、早く第一線で活躍したいことなどが記されている。また昭和一四年一二月から一六年一月までの南支派遣の手紙は、戦場での食糧不足に困ったこと、負けた国の哀れさを見せつけられたこと、送られて来る『真友』で村の様子や郷土の戦友の様子を知ることができたことが記されている。

昭和一七年四月から二〇年七月まで後期の手紙には、再び応召になり

入隊したこと、北支での軍隊生活、同郷の戦友の近況報告、銃後の家族（父、弟、妹）の心配、『真友』や新聞を送付してくれる高峯に感謝する内容が記されている。戦地での戦闘の様子は少ない。

全体的にみると前期の手紙は、軍隊生活での自分自身の報告を中心とした内容が多いことに對し、後期の手紙は同郷の戦友の近況報告、銃後の家族の生活を心配する内容が多い。

3 高橋善一からの聞き取り

平成一二年一月三〇日北上市藤根公民館で、本人から直接従軍体験や軍事郵便について話を聞くことができたので、その要旨を記載する。

徴兵検査は昭和一一年に黒沢尻町（現北上市）で受け、甲種合格だった。すぐに高峯先生におまへの行くところは決ったと言われ、近衛師団に入隊することになった。高峯先生には補習科と青年学校で教えられた。また復員後嫁の世話もしてもらった。

近衛師団では、野戦の歩兵であり最後のとどめを刺す部隊であった。戦地では罪のない子どもや年寄りまで殺し、民家に火をつけ、地雷を仕掛け前進した。そのままにしておくのが敵がそこを利用するため、配給されたマッチでいっせいに火をつけた。戦争だからやむを得ないが、いい気持ちはしなかった。戦地で「近衛兵というのは何でもやらせるところだ、とっても気ままで叶わない」と郷土出身兵と話したこともあった。

従軍する前から母親の代筆を時々していたし、軍隊の中で手紙に書いてはいけない事項等は高峯先生に教えられていた。南支へ行つた時は母に出した手紙が多いが、北支へ行つた時は高峯に出した手紙が多い。

母が死んでからは家族に出しても返事が来ないので、次第に高峯に出すことが多くなっていった。高峯に出すと必ず返事が返って来たし、『真友』を送付してくれたので村のことや出征兵士の近況を知ることができた。

はがきや便せんは戦地で支給された。また戦地で暇な時は日記も書いたが、みな検閲があり本当のことを書けば憲兵に没収されるので大変だった。満州に行った時、封筒に手紙と一緒に戦地の土を入れて高峯へ送ろうとした時、アヘンと間違われて検閲でひっかかったこともあった。

戦地では、『真友』が送付されて来るのを期待して待っていた。送付されてきた『真友』を見ると、村に帰り知人と語り朋友と話すのと同じくらい村の全てを知ることができた。『真友』だけの時もあれば先生の手紙が入っている時もあった。『真友』を送付してくれる高峯に感謝した。引き上げて来るときに釜山で邪魔なものは処分して来たので、『真友』も先生の手紙も残っていない。

軍隊生活よりも農業をしている方がずっといい。軍隊もいい時は良いが、ひどい時は大変だった。戦争は最後の最後まで勝つと思つたが戦況が厳しくなるにつれ、内心変だと思つた。戦争の話については、戦友会で話す程度で家族に話したことはない。

4 高橋善一の軍隊手牒

高橋善一が南支へ行つた時の軍隊手牒が残っていたので、その内容について原文どおり記すことにする。なお一部北支へ行つた時の履歴も本人が追加しているのでそのまま記す。

所管	近衛師団
部隊郷	近衛歩兵第三聯隊第七中隊
兵科	歩兵
官等級	陸軍軍曹
特業	担架迫撃砲
本籍	岩手県和賀郡藤根村藤根第拾六地割字畑中六拾六番壹号地
氏名	高橋善一

大正六年四月八日生

身長

壹米六四釐四耗

兵役

現役

服役年期

二年

実役

自十二年十二月一日至十四年十一月三十日
自十二年十二月一日至十六年一月十二日

摘要

陸軍省令第五十一号ニ依リ自十四年十二月一日至十六年一月十二日在営延期

出身前履歴

高等小学校卒業

昭和十二年三月二十一日藤根村青年学校ニ於ケル課程ヲ修得

精勤章

昭和十三年六月一日兵精勤章附与

昭和十三年十一月一日兵精勤章附与

褒章

昭和十五年四月二十九日支那事変ノ功ニ依リ勲八等ニ叙セラレ旭日章ヲ並ニ賜金三百圓ヲ賜ス。昭和十五年四月二十九日支那事変従軍記章授与。

昭和十八年十月二十五日特別ノ思召ヲ以テ天皇陛下ヨリ御

莫下賜。

善行証書

昭和十六年一月□日善行証附与

履歴

昭和十二年十二月一日現役兵トシテ近衛歩兵第三聯隊第七中隊ニ入営。昭和十三年三月十九日第一期教育修了。昭和十三年四月一日ヨリ同年六月十六日迄近衛歩兵第三聯隊ニ在リテ支那事変勤務ニ従事ス。同年十月二十日歩兵一兵。

昭和十三年六月十七日ヨリ同年十二月三十一日迄近衛歩兵第三聯隊ニ在リテ支那事変勤務ニ従事ス。昭和十四年一月一日ヨリ同年三月三十一日迄近衛歩兵第三聯隊ニ在リテ支那事変勤務ニ従事ス。昭和十四年十一月七日及び八日静岡

県下ニ於ケル天覧演習ニ参加。昭和十四年十一月十五日近衛混成旅団臨時動員ノ為近衛歩兵第一聯隊ニ転属。昭和十四年十二月二十日歩兵上等兵ヲ命ス。

昭和十六年一月三日東京芝浦上陸。同年一月十二日満期除隊。同年一月□日除隊ニ付臨時御賜金二円五十銭下賜。

昭和十七年二月二日軍令陸甲第八号ニ依リ編成下令。四月八日臨時召集ノタメ北部十六部隊ニ應召。同年同月勝第五二二八部隊五十嵐隊ニ編入。同月十四日編成完結。同月三十日弘前出發。五月三日宇品港出帆。五月五日釜山港陸。

同月七日鮮満国境(安東)通過。同月九日満支国境(山海関)通過。同月十四日山西省洪洞着。同月同日ヨリ同地付近ノ警備。十月十三日命下士官勤務。八月一日命兵長。

昭和十八年十二月一日任陸軍伍長。十一月十日急性大腸炎ニテ雪部隊野戰病院ニ入院。同月二十四日退院。同月二十五日所屬隊復帰。十二月十日軍令陸甲第百十五号ニ依リ編成下令。

昭和十九年二月二十五日将第一四六三部隊萬隊附。同月同日編成下令。七月二日臨汾陸軍病院入院。同月九日細菌性赤痢(老等症)ト決定。八月十一日臨汾陸軍病院退院。同日所屬部隊復帰。昭和十九年十二月一日任陸軍軍曹。同日給三等給。七月九日東部第六十三部隊ニ転属。同日西山隊ニ配属。八月二日利根第二七七〇九部隊ニ転属。

二十年六月七日山西省汾陽發。同十五日山海関通過。同十七日鮮満国境(們国)通過。六月二十八日釜山港出帆。六月三十日門司港上陸。同七月九日東部六三部隊轉属。同西山隊配属。同八月二日利根二七七〇九部隊轉属島田隊附。八月二十五日護第二二六〇三部隊轉属。九月二日復員了。

出戦地

九月四日召集解除。

昭和十四年十一月二日軍令陸甲第三十八号同年同月同日陸支機密第二四四二依り同年同月三日動員下令。同年同月二十一日動員完結。同年同月十五第二大隊本部二編入。同月三十日宇品港出帆。同年十二月七日黄埔上陸。同年同月八日黄埔出港。同年同月同日広東着。同年同月九日広東出発。同年同月同日南村着同地警備。同年同月七日ヨリ同年同月十五日迄広東北方地区の警備ニ従事ス。同年同月十六日ヨリ昭和十五年一月四日迄翁英作戦ニ参加ス。昭和十五年一月五日ヨリ同年二月十日迄賓陽作戦ニ参加ス。同年九月二十九日迄南寧付近ノ警備ニ従事ス。同年二月二十一日ヨリ三月一日迄欽寧道西側地区掃蕩戦ニ参加。同年三月一日ヨリ同年四月七日迄江南作戦ニ参加。同年五月二十七日ヨリ同年六月十七日迄第二次西路作戦ニ参加。同年六月十七日ヨリ同年七月二十二日迄仏印国境作戦参加ス。昭和十五年六月三日軍令陸甲第十号ニ依り編成改ム下令。同年八月四日編成完結。自九月三十日至十一月二十四日欽寧撤去作戦ニ参加。自十一月二十五日至十二月十一日中山県附近ノ駐屯。昭和十五年十一月三十日軍令陸甲第五十七号陸支機密第二四四〇号ニ依り同年十二月三日復員下令。同年十二月十二日広東省唐家出帆同年十二月十八日宇品港帰着。

5 翻刻 67通の軍事郵便

1 【はがき表】

岩手県和賀郡藤根小学校

高橋 峯 次 郎 様

【はがき裏】

謹啓

小生儀

今般入営ニ際シテハ種々御配慮ヲ蒙リ且又御繁忙中遠路態々御見送被下之加御銭別迄賜リ御厚志ノ程只々感謝ノ外無之候。御陰ヲ以ツテ本日無事入隊致シ愈々軍隊生活ノ第一歩ヲ踏ミ出シ候間乍憚御安心被下度候。小生モ恐レ多クモ、陛下ノ股肱ト頼マレ国家ノ干城トナリシ此ノ上ハ只々粉骨碎身赤誠ヲ以ツテ御奉公ノ覚悟ニ御座候間留守中ハ何卒万端宜敷御願申度伏シテ奉願候。

敬具

昭和十二年十二月一日

近衛歩兵第三聯隊第七中隊第一班

高橋善一

2 【はがき表】

岩手県和賀郡藤根村後藤

高橋 峯 次 郎 様

【はがき裏】

恭賀新年

国の鎮の喇叭の音勇ましく

兵營の窓より新春を祝し

貴家御一統様御幸福を

お祈り申し上げます

昭和十三年元旦

近衛歩兵第三聯隊第七中隊第一班

高橋善一

3 【はがき表】

岩手県和賀郡

藤根村字後藤

高橋 峯次郎様

赤坂区一ツ木町

歩兵第三聯隊第七中隊二

高橋善一

【はがき裏】

拝啓

寒気愈二相催候処先生には御異状之無き事と遠察申

居候。高橋事十八日迄□□ヶ月間埼玉群馬□□県下に於て秋季

演習終了、諸物品の手入れ等繁忙に候へども先□□□□乃候処更に

入営兵入隊準備の爲め只々繁忙に相成り□□□□長乃間御無音

御赦し下され居候。扱先生先日ハ「真友」御送り被下誠に有難く御

礼申上候。全く村の状況を知るを得、帰省せし如く感じ候。扱

秋季演習は上毛の二山と浅間山の爆発等を眺めつつ演練され申候。

高橋事旗渡兵として全演習間服務致し候。至つて元氣にて「マメ一ツ」

も出さず終了致し候間他事乍ら御休神被下度候。扱

先生無礼者の高橋事村の各位にも失礼だけを致し居り候へば

誠に申訳無き候。尚先生青年学校の諸君にも宜敷く御願申候。

向寒の折柄先生健康を御祈り申候。

先は粗文なれど兵営生活の近況を御知らせ申し時下御見舞申上候。

敬具

4 【書簡】

岩手県和賀郡

藤根村字後藤

高橋 峯次郎様

【封筒裏】

近歩三―七―一

高橋善一

【本文】

拝啓

久しき間御無音に打過ぎ誠に申訳ありません。

御赦面の程御願申します。

先生にはさぞ達者にて村の爲尽力の事と察します。

扱高橋も入隊以来百三十回状袋の中に入り、金の

食器、鉄の箸で食をすること過に四百回も重り其の

度重ねる毎に軍隊生活に慣れ、今ではどうやら楽に

相成りました。既に御承知の事と思ひますが東京は

桜の満開、兵舎の周囲は花の壁を廻らした。

暖かさの急に来るのには全く比驚しました。

又四月七日守衛検閲も終り以前の多忙も

幾分軟化し其れに反して諸勤務が多くなりました。

扱て先生より度々の「真友」無礼の態にて頂戴

致して居りました。此の無礼をも先生御赦し下さい。

扱青年学校では軍隊に編成さるる様な事は

小原指導員の面会の折から聞いて居りました。

遠くより芽出度く編成の終るを祈つて居りました。

又記念館類焼の事甚だ惜しい事をされました。

又高橋指導員殿の戦死全く夢の様です。この様な

事の知る事の出来るのも皆「真友」有りてこそ知らるる

のです。誠に有難ふ御座ります。

扱入営してより今迄の大事を左に書きます。

十二月一日 入営。戦友殿は秋田県出身鈴木一等兵殿

(入営の日は□守御賜□中不在)

十二月二日 銃と剣を渡さる。

三日 青年学校教練□□□□□

十日 宮城御拝観

十五日 南京落城奉団祭（靖国神社へ）

十八日 血液ニヨリ戦友殿北海道出身塩野谷一等兵殿と変る。

一月 八日 □□□大観兵式参加

十二日 第一回行軍「哲学堂」へ

この際中野通信隊の側を通りました。

田鎖一雄殿の居る兵舎を見ました。

十四日 第一回□□本射撃

十六日 小原指導員殿面会

二月 二十一日 第一期第二次検閲。代々木□兵場北□□軍

二十八日 召集兵一部隊ガイセン□隊

三月 三日 初年兵中隊より九名出征する。

九日 習志野出張

十五日 第一期第三次検閲

二〇日 帰屯営

四月 七日 御守衛検閲

十日 高橋清徳指導員殿面会

戦死者□□員御願に來られたとの事弘前入営兵の様子も

聞いた菊池君、伊藤君既に出征の後についてと聞き

先に入営した自分の未だモサモサ残つてゐること誠に残念に

思ひます。

本年の徴兵検査は「真友」にて知りました。適齡の諸君にも

先生宜敷く御願致します。「高橋は元気で毎日

陛下より^{（股肱）}肱股と頼まれた身の本分を全ふすべく

努力致して居ります」と、そして赤煉瓦の舎内より

春風強い舎外より一名なりとも多く大元帥陛下に

拝ることの出来る者多かれと祈つて居ります。

今朝広用体操場にて体操中高橋指導員と

会へまして、全く嬉しく何より話してよきや全く分りません

でした。その中に急きの事とて帰られ全く後を追つて

いろいろ聞き度い位でした。二度と会へぬと思つてゐた

指導員殿、顔の色黒く三十一の襟章光らして

笑顔にて会ふ事の出来た嬉しさ全く夢の様でした。

尚先生来る十五日再び下志津出張演習との事です。

行軍は検閲行軍とて相当額の出る行軍らしいですが

大食者の高橋は「アゴ」の出る様なことはないと自信を

^{（持つて）}以て居ります。今こそ最左翼に居る身ではあれど

来る可き日には一人前の軍人となる考へで努力

致します故御安心下さい。

種々厄介になつた自分の絶大の無礼の程重々

お詫び致します。先は乱筆乱文以つて御詫び致します。

尚先生何時か高橋指導員の中隊を愚弟（保）に

教えて下さい。葉書をやらうと思つても遂忘れて

送れませんから宜敷御願ひ致します。

草々

四月十日

高橋善一

高橋峯次郎様

5【はがき表】

岩手県和賀郡

藤根村後藤

高橋 峯 次 郎 様

【はがき裏】

拝啓

暖気益々加はり東京は既に我藤根の夏の様になりました。村も暖くなり且又多忙となられた事と思ひます。

先生にはお変わりありませんか。高橋事も無事事務

に努力して居ります。さて家では先生より種々と厄介との事

誠に恐入ります。又先日は御守りを下され高橋一秒も

身より離さず、そして御貴殿の望を叶ふ可く努力致します。

扱不肖も習志野出張は「ヘウソウ」にて練休し残念でしたが、第二回

目の出張下志津は昼夜演習にも幸無事終へて帰営致し、

来る十一日は第三回目富士裾野に出張となつて居ります。

又初年兵もボツボツ風紀営兵や御守衛に勤務が割られ

初めました。不肖も観兵式（天長節）の前日風紀につき異状

なく服務しました。何卒御安心の程御願します。先は乱筆以つて

御礼迄。草々

6 【はがき表】

岩手県和賀郡

藤根村字後藤

高橋 峯 次 郎 様

近衛歩兵第三聯隊第七中隊

高橋善一

【はがき裏】

拝啓

農繁御伺申します。長らく失礼

致し居りました。誠に申訳ありません。

富士出張も無事終り帰路は箱根の

嶮を山地演習をして、有名な小田原に宿泊

しました。有名なアメリカ人の村「アメリカ村」、「アシノ湖」の美観

箱根の長尾峠道は体に効きますが以後は大した事はありません。

国立公園だけに全くキレイです。小田原の待遇も大したものです。

丁度其の時徐州陥落の提灯行列一層の賑かさでした。

帰営後は剣術体操と射撃術演習に御守衛勤務です。

我々の兄と拝む二年兵殿は三十一日除隊しました。自分は

風紀衛兵として表門立哨の時全員退門しました。多くの

出迎人に迎へられて出て行きましたが時節柄除隊

は割合楽しく感じて居りませんでした。勿論さうでせう。

先生時節柄御身大切にして下さい。草々

7 【はがき表】

岩手県和賀郡

藤根村後藤

高橋 峰 次 郎 様

近歩三ノ七ノ一

高橋

【はがき裏】

拝啓

久しき間御無音致しました。もう一番除草も終つたでせう。

東京も今度の降雨には相当損害をしたらし御座ります。

営内の狭窄射撃場も崩れました。又向ふの山脇女学校の壁も

落ちました。先生、村の方はどうですか。暴雨がありませんでしたか。

源孝君も元気で入団したさうですね。飛行場の事も聞いて

一日も早く完成の日を喜んでゐます。広瞭たる眺め一目

見たい感じがします。さて先生達者ですか。さぞ田植

でお疲の事でせう。高橋は元気です。毎日戸山射場へ射撃に行つてゐます間稽古には剣術です。又時々城壁登降武術戦等実戦に於ける教育を受けてゐます。全く戸山学校へ行つての城壁登降は北支の城壁に登る感じがしました。では乱筆御許し下さい。草々

8 【はがき表】

岩手県和賀郡

藤根村字後藤

高橋 峯次郎様

近歩三—七—一

高橋

【はがき裏】

暑中御伺申上候。

長らくの間御無音致し申訳ありませんでした。御赦し下さい。

扱本年も相変わらず炎暑堪え難き候と相成り

ました。折柄如何御過しの事か御伺申します。不肖

頗る元気で日々軍務に勉勵致し居ります故

御安心下さい。今は射撃です。毎日毎日戸山射場に

馳足で往来して居ります。先生菊池清右エ門君が

戦軍学校に分遣されましたね。千葉県ですから

我々が出張演習に行く所らしいですから、今度の

出張には会へる事と思へます。では時節柄

御身大切に御自愛の程御祈り申上ます。

乱筆で甚だ恐れ入ります。草々

9 【はがき表】

岩手県和賀郡

藤根村字後藤

高橋 峯次郎様

近歩三—七—一

高橋

【はがき裏】

拝啓

先生有難ふ御座ゐます。厚く厚く御礼申上ます。

村の総ての事情を深く知り得ました。

我々の指導員殿の奮闘振正しくあの人のやりさうな

事です。我々はいよいよ高橋指導員を手本として

努力致します。高橋は例の通り元気にて明日はいよいよ

第二回目の富士裾野「滝ヶ原廠舎」に出張となつて居ります。

元気で演練して来ますから御安心下さい。扱先生、先頃

中隊から五名宛警備將校実兵式に習志野に行き

ました。菊池君に面会仕様と想へましたが三日二晩の出張故

遂面会出来ませんでした。全く惜しふ御座ゐました。

しかし又行く事がありませう故、その際は必ず

面会仕様と思つてゐます。先は乱筆御免下さい。

今日は明日の軍装準備で上を下への大騒動です。先は

御詫の一言と代へます。草々

10 【はがき表】

岩手県和賀郡

藤根村字後藤

高橋 峯次郎様

近歩三—七—一

高橋

【はがき裏】

拝啓、其の後は缺礼^(欠)任りました。御許し下さい。

高橋先生其の後異状ありませんか。高橋も

異状ありません。御安心下さい。

富士出張も異状なく帰営致しました。

今は毎日朝点呼より剣術です。

「夏負けする」不肖も軍隊に來たら

元気です。麦飯は矢張体に良くあります。

富士登山をしました。惜しくも七合目迄登ったら

暴風雨のため止むなく下山しました。頂上迄

登り兼ねて残念でした。下の方に箱根山を

見ました。天下の嶮も下駄の様に思ひました。上は

まるで寒く冬の様でした。後は後便にて。

11 【はがき表】

岩手県和賀郡

藤根村字後藤

高橋 峯 次郎 様

近歩三―七―一

高橋

【はがき裏】

拝啓

残暑尚^(激)激ふ存じます。長い間御無音に打過ぎ誠に

申訳ありませんでした。御許し下さい。高橋は御陰様にて「夏負」

もせず元気にて精勵なし居ります故御安心下さい。扱

先生は如何ですか。多分高橋の察するところ例の通り元気にて

村のため御努力の事と思ひます。誠に御苦勞様です。

一日入隊した高橋七蔵君とは、高橋去る三日より十二日迄近歩

二に分遣修業を令せられ向ふに行つて居りました通合^(都)上毎日の

様に語り合つて笑ひ又慰め合つてゐました。江釣子の忠蔵君や

藤田金蔵君も元気で高橋帰る頃には数種の教育を受けて

ゐました。立派な「兵隊さん」になりました。元気であつます。安心し

て下さい。さて先生、先日青年学校御一同に葉書を差上げましたが

何卒先生からも高橋の長い間の無礼宜敷と申して下さい

様恐れ入りますが御願します。先生、先頃家族に送つた「つはもの」月

後れとなつて済みませんでした。数々の缺礼^(欠)御赦面下さい。

草々

12 【はがき表】

岩手県和賀郡

藤根村字後藤

高橋 峯 次郎 様

近歩三―七―一

高橋

【はがき裏】

拝啓、其の後御変りありませんか。高橋壮健にて軍務

に精勵なし居りたる故御安心下さい。飛行場の献納式も無事に終られ

たとの事^(概)□ね盛大でありましたでせう。高橋前日曜久し振りで外出

出来^(ニュース)□□映画を見ましたら、意外にも東日二^(ニュース)に我飛行場

献納式実況を見ました。あの西部の連山も全く懐しく、そこに

広々とした飛行場畏くも秩父の宮殿下の御姿も拝見されました。

この場面の前に脱帽の字幕が現れ、全員脱帽其後現れました。

そして飛行機も爆音高く飛行機が舞上りました。全く高橋

何事も言ひ様のない感に打たれました。県民各位の赤誠(熱誠カ)ある銃後
後援の偉大さ絶大の進歩を遂げたる我村の発展但々感謝

に絶へません。さて先生、村は今稲刈りで大多忙でせう。軍隊に居
れば稲刈の事も忘れてゐて全く農村の皆様に恥入る次第です。

扱軍隊一ケ年の大行事たる秋季演習も十一月四日より軽井沢を
中心とした長野県群馬県下に於て山地戦を行はるる事です。

今迄且つてなかった程の難戦との事です。今より着々準備中です。
元気で終つて来ますから御安心下さい。先生御身大切にして下さい。

先は乱筆御免下さい。草々

13 【はがき表】

岩手県和賀郡

藤根村字後藤

高橋 峯 次郎 様

近衛歩兵第三聯隊第七中隊ノ二

高橋善一

【はがき裏】

拝啓

益々厳寒相迫リツツアリマス。長イ間御無音申シマシタ。

先生、先日ハ「新岩手日報」御送り下サレ誠ニ有難ク御礼申上マス。

東京新聞ハ読メマスガ我郷土ノ新聞ハ到底見ル事ハ出来マセン。

全ク我が郷土ノ記事ハ何ヨリ懐シク思ヒマス。扱テ高橋事

秋季演習ノ無事ニ、ソシテ其ノ後モ達者ニテ軍務ニ勉勵シテ

居リマス故御放心下サイ。新兵一ケ年モドウヤラコウヤラ終リマシテ、

我々ノ弟分ヲ迎ヘマシタ。弟等ヲ見レバ全ク過去一ケ年前ヲ

思ヒ出サセラレマス。七蔵君ニハ近キ中ニ出征トノ事遂諸勤務ノ

タメ外出モ出来ズ、面会ガ困難ト思ヒマス。全ク一里ト離レヌ

近クニ居リナガラ会ヘヌト思ヘバ、遺憾ニ堪ヘマセン。来週ハ大本營
衛兵ヲ服務スル事ニナツテ居リマス。先ハ御礼迄。
向寒ノ折柄御身大切御自愛ノ程祈上マス。草々

14 【はがき表】

岩手県和賀郡

藤根村後藤

高橋 峰 次郎 様

【はがき裏】

謹賀新年

皇威東亜の天地に輝く戦時下第二年の新春を
迎へ皇軍の一員として更新の意気と熱と力と

を感じ、皇国督の任務に一層の感激を覚え候。

先栄の年頭に際し皆様の御清福を祈り上げ候。

一月一日

近衛歩兵第三聯隊第七中隊二班

高橋善一

15 【はがき表】

岩手県和賀郡

藤根村字後藤

高橋 峯 次郎 様

千葉県習志野西廠舎

近歩三―七―二

高橋

【はがき裏】

拝啓

余寒ニテ候。先生ニハ御異状有リマセンカ、御伺申シマス。
例ノ怠惰者ノ不肖事長イ間御無音申シマシタ。

悪シカラズ御赦シ下サイ。高橋相変ラス軍務ニ勉勵ナシ
居リマスル故御放心下サイ。扱テ本年モ愈々出張演習ガ
始マリマシタ。現在習志野廠舎ニテ黎明線ヨリ薄暮戰

夜間攻撃ト対飛対機甲対ガスノ状況ヲ編入シテ次カラ次ヘト
実施サレテイマス。扱テ我近歩三ニ二月ヨリ現在モ尚延々トシテ

伝染病連出シタタメ、我々ノ重大任務タル御守衛モ中止シテイマス。
全く遺憾デス。先生、高橋ノ不味ナル成績^(成績)自分トシテモ余リ

ノ事ニ落胆致シマシタ。シカシ高橋ハ其ノ後此ノ
成績^(成績困難)難困ノタメ死力ヲ尽シテ邁進シテイマス。

先生、高橋ノ弱腰笑止出来ヌ事デセウ。甚ダ残念デス。

先生ノ御指導ノ甲斐ナキ事誠ニ濟ミマセン。御許シ下サイ。

先ハ出張通知旁ニ御詫迄。御身体大切ニシテ下サイ。

16 【はがき表】

岩手県和賀郡

藤根村字後藤

高橋 峯 次 郎 様

近歩三―七―二

高橋

【はがき裏】

拝啓

御無沙汰のみ申して居ります中に何時の間にか春と相成
ました。帝都は春です。桜も満開も去り一ヒラ／＼と夜風
に吹き流され始めました。三階の兵窓より遙か議事堂
を眺め、又丸ノ内の方角も全く春です。柳も青々と

全く春と相成りましたと三日前北支の友伊藤武治君

より便りがありました。元気で自動車で輸送に勉勵して
ゐるとの楽しい便り。又田鎖稔君よりも元氣との一報。

七蔵君に度々手紙を送るけれど一寸も返事がありません。

堅治君には今日出しました。さて当聯隊では本日師団

閣下随時検閲を実施されました。一週間來の準備

遺憾なく完了しました。御安心下さい。先生には相変

らず健在と遠察して居りますが如何ですか。

乱文御赦しの程御願申します。草々

17 【はがき表】

岩手県和賀郡

藤根村字後藤

高橋 峯 次 郎 様

近歩三―七―二

高橋

【はがき裏】

拝啓

春色正に酣の候と相成りました。高橋其の後も異状あり

ません。先日曜に始めて通合^(都)良く外出も出来直に

近歩二の高橋、石田両君に面会一緒に外出なし上野

公園見物に行き故郷の話に花が咲きました。尚昼食を

なし楽しみのある入営以來の外出でした。両君の外に横川目

出身の戦友も加わり同君等は元気で翌日習志野廠舎に

出発した筈です。高橋君は一日も休まぬと、石田君は一ヶ月位身体

具合の悪い為め練休したとの事。しかし今は全快例の通り元氣でし

た。

此之点は自分よりも宜敷と伝へて呉れと云はれてゐました。

何卒御安心下さい。東京は桜は散つていよ／＼濃春と相成りました。

天長節も靖国神社大祭も来ました。軍隊参拝や観兵式の

予行をやつてゐます。先生、農事も益々多忙と相成ります。

青年学校の生徒諸君にも宜敷御励申します。先は

先生の健康を御祈致します。草々

18【はがき表】

岩手県和賀郡

藤根村字後藤

高橋 峯 次 郎 様

千葉県下志津廠舎

近歩三―七―二

高橋 善 一

【はがき裏】

拝啓

御多忙の候と相成りました。先生御変りありませんか。高橋

事相変らず連日軍務に勉強なし居ります故御安心

下さい。天長節の大観兵式に参加、その状況は全く新聞紙上

に掲載されてゐる以上の壮観でした。陸の各部隊中にも新軍旗を

奉ぜし〇〇部隊、空の編隊飛行、又一方遺族の団傷兵群

全く感激の外ありませんでした。その翌日(三十日)朝現下志津廠舎

に出張しました。今度の出張は師団長□外戦闘検閲三又様の

ためです。(中隊教練ト戦闘射撃)十二里余の行軍も馳れ

ますと安外楽なものです。豆一ツも見ません

から御安心下さい。此の通りの元気で拝営なします故此之

点何卒御放心下さい。尚先日は我々のため種々の御催をなし下され

唯々感謝の外ありません。厚く／＼御礼申します。

時節柄御身大切にして下さい。尚先生徴兵検査も来ました

諸君に宜敷く御願致します。先は御礼迄。 草々

19【書簡】

岩手県和賀郡藤根村字後藤

高橋 峰 次 郎 様

【封筒裏】

東京市赤坂区一ツ木町

近衛歩兵第三ノ七ノ二

高橋 善 一

【本文】

暑中御見舞申します。

本日は真友御送り下され有難く御厚礼申上ます。長い間

例の情慢性に懸はれ御無沙汰のみ申しました。何卒御赦下さい。

二ケ年の月日もなんのその間近に終らんとしてゐますが、今は

凡々と過す自分の生活我乍ら遺憾に堪へません。だらし□□^(ないカ)

生活、寒い／＼と申しました冬も何時の間にか□□^(終リカ)

暖かい温和な春も遂過ぎ、道路に汗の落ちる炎暑の候□□□□^(となりカ)

ました。此の暑気は我村も又大陸の方も同様で御座いませう。

大陸の戦士も又泥田の除草に努力さるる郷土も誠に御苦勞

様で御座います。尚この両戦士に威大なる御力を与えて下さる

先生の御努力誠に感謝の外ありません。

先生は例の通りの元氣にて御努力下され誠に喜びに堪へません。

厚く感謝致します。

本日守衛下番致しましたところ、「真友」到着致し居り、

直に拝見致しました。我村の状況やら第一戦のつわものの状況

総ての記事は皆な高橋の身の上への参考記事ばかりです。

誠に情けないのは高橋のみです。遺憾に堪へません。せめて

一度は必ず第一戦線に活躍の日の至らん事を祈る次第です。

去る七月七日事変勃発記念日には、当班隊否師団では、勃発記念

演習を実施しました。そして大衆は現代戦を普及する意味に於て

多摩川畔に於て歩砲工の聯合、更に航空戦車を総合して盛大に

挙行されました。敵前上陸より敵既設陣地を攻撃し、

その中に架橋砲兵の渡河、飛行機の援護戦闘、戦車□□

等々「実戦ながら」とはこの事を申すものと痛感□□□□□□

さて其後は連日射撃と剣術です。

射撃は来る八月静岡滝ヶ原廠舎出張の際聯隊射撃が行はれます□□

その際優賞を目指して各中隊喧嘩腰で大久保射場に通つてゐます。

扱て村の方も物価は馬鹿値ださうですが、軍隊もその余波を食つてか

入営当初に比較しましたなら驚く程の差であります。

兵器に被服に給食に於て特に消耗品の如きは四分の一位に相成りました。

変な話に成りますが、給食の如きは肉類はホンに時々にて主に

大根、^(牛蒡)芋、大豆だけであります。

さて近歩五聯隊が近く編成されるとの事です。八月幹部のみ編成

十二月完全に終了する予定との事です。その細部は仲□□

にて我々もわかりません。

さて我々の同年兵で当聯隊より出征せし者六分ノ一位あ□□□□

彼等は有名な海南島攻略戦に参加の模様で負傷者□□□□

もあるとの事です。高橋は遂この軍中に入るを得ず遺憾に堪へま

せん。これも大命の然らしむところ止むを得ません。

今年も秋季演習をやります。第一戦の小原静夫君、菅沼正治君、

伊藤武治君、高橋源八君等よりニュースの交換をやつてゐます。

高橋七三君の部隊名が異つてゐるか、一寸とも返便ありません。

近く中野辺の伊藤君を訪ねて見やうと思つて居ります。

第一線の諸君はみな素晴らしい活躍振り高橋感謝して

居ります。□□なから高橋も行きたく一葉一通来る如に痛感します。

尚我中隊に入隊した中内村の小原豊君、習志野学校に分遣により

ました笹間村の高橋君は元気です。江釣子村の及川君

病気の為め入院してゐます。二子村の千田長平君も元気です。

一緒に入営しました岩崎の斉藤松男君も負傷も直り

元気で剣術です。郷土の諸君が今年は相当入営しました。

集つては面白い話をしてゐます。

先生、恐れ入りますが高橋叶君と石田武君の部隊□□

弟(保)に知らして下さい。御願します。

誠に乱筆乱文になりました。余り長い間御無沙汰のみ

申しましたので遠思いのまま頭に浮かぶままに書きました。御赦し

の程に願申します。

先は先生の御健康の程御祈り申します。御礼方々

暑中御見舞申上ます。草々

高橋善一

高橋峯次郎先生

20【書簡】

岩手県和賀郡

藤根村後藤

高橋峰次郎様

【封筒裏】

東京市赤坂区一ツ木町

近衛歩兵第三聯隊七一二

高橋 善一

【本文】

星は一つでも二つでもその努力こそは三つ星以上
と思ふて努力してゐます。

誰が認めんでも否でもただ我のなすの御
献身奉公それあるのみとして努力してゐます。

諸先輩又同輩は第一線のまだ炎熱下にて、
御奮闘の事誠に御苦勞様で御座ゐます。我

も又各位以上の奮闘をなす可く努力致します。

お盆も近づきました。益々元氣にて御過しの程

御祈り申上ます。

誠に粗辭で御座ゐます。御赦しの程

御願申します。

八月廿二日

高橋

高橋 峰次郎様

21【書簡】

岩手県和賀郡

藤根村字後藤

高橋 峯次郎様

【封筒裏】

近歩三—七—二

高橋 善一

【本文】

拝啓

初秋之候、先生には如何御過しの事ですか。

長い間御無沙汰申しました。何卒御赦し下さい。
月日のたつのは早きものとは今更に感じたわけでは
ありませんが、最近良く痛感致します。

赤坂台上の近歩三の兵窓にも初秋らしい心地の良
い風が吹いて来ました。我々はこの涼風を心地良しとて
感賞して居る時、さて大陸の戦線に戦ふ

戦士諸氏にはまだ凌ぎ難き酷暑を浴びて居る
方もありませう。又涼氣いよ／＼寒氣と相成るとて
来る冬を嘆いて居る方もありませう。

聽て来る冬を思ひ前線に奮闘さるる戦士

の勞苦の益々多き事を想ひ同情に堪へません。

さて、先生我聯隊に最近伝染病続出のため、

我々の大任たる守衛も服務が出来ません。

全く残念です。残りの少い在营中一回なりとも

多く□□の大任に服す可く思へど一二の不心得

者のため、現在の状況に相成りしは全く遺憾に

堪へません。現在は来る師団特別狙撃競技会

が最近に切迫しましたので特別射手は連日大久保

の射場に練習射撃に行つて居ります。

今日道場に居りましたところ憲兵学校の生徒

が銃と拳銃の射撃に来て居りました。多分

伊藤君も来て居る事と搜しましたところ、

漸く同班の兵を見付け某兵は伊藤君の方へ

歩み、「伊藤面会タヨ」声が大い。矢張り軍人の声だ。

控所に居りし伊藤君出て来た。久し振りで

会へた昔の友伊藤君、農会に行つて居た時とは

全く違つてゐる。やせて居る様だ。

兵隊独特の挨拶と申しませうか「やア、御苦労さん」
両方より発す。「お前やせたな」とトップを切れば、

「うん、三キロへったよ」懐かしき郷里の友に会へた。

何から話さうか。伊藤君は黄色の襟章に軍刀□

を長靴の踵にたゝきつける。全く自分のコボ剣が

情けない。伊藤君ネバくした調子で「お前も変ったな、

「何に、さうか。俺は少しも気が付かんぞ。お前こそ変ってるよ」

途端に伊藤も自分も笑って仕舞ふ。

伊藤君曰く、「近衛の兵隊は仲々服が悪いな。俺等の

聯隊では初年兵でもこんなものは着んぞ。」

「さうかな、俺の聯隊は出るのが少いからな。これでも

上層の被服だよ。演習用はまだく悪いよ。乞食以上

のボロくだよ。」これが話の始めだ。伊藤の父上の

面会に来た事、今が試験で忙しいとか。

憲兵も時局柄多く採用する。そして

速成（農会の調子が早くも出る）でな、午前が学科

なら午後が実科との事。パンフレートがこんなに

たまつたと手で一尺位を示す。主に法律の様なもの

が多いので、ねむ気が来て困るとか。

実科としては縄のかけ方、馬術、剣術、書道も

やるとの事。

朝鮮へ入営して朝鮮からここへ来て東京はまだ少しも

わからぬとの事。十月は卒業だから朝鮮へ帰る前に

一旦帰省したいとか。飛行場の話等

「さうだとのこと」づくしが両方から持ち寄りに話す

「十月除隊」だと云へば「除隊が出来るかな？」不審

さうに云ふ。勿論時局がくだからさう思ふも無理が

ありません。その中伊藤君の射撃番が来た
ので□を期して別れる。

今迄で面会へ行かうと思つても伊藤君の多忙を

聞いて会へずゐた。しかし今日は偶然にも会った。

話は仲々続きました。そして想ひました。戦線の

勇士は同郷の者に会つたらどんなに嬉しいで

あろうかとつくく感じました。

去る十日十一日は松戸町（千葉県）へ出張、

松戸工兵学校の程近い八ツ森演習場にて

徹夜演習、持火点攻撃を実施されました。

火焰放射器やら銃眼閉□器、

吸着爆弾、携爆筒等の実物を始めて

見て来しました。放射器は二〇米に効力ありとの

事、實際油の代用に水を射てるを見る。

乱筆を以って長々と書きました。伊藤に会へて

嬉しさの余り其の儘綴りました。

判らぬところは判読の程御願申します。

さて村の方もいよく刈入れ時が来しました。

首尾よく完了せられます様御祈り

申して居ります。

先は先生の御健康を御祈りしまして

乱筆を止めます。敬具

九月十三日

高橋善一

高峰先生

岩手県和賀郡

藤根村字後藤

高橋峰次郎様

【封筒裏】

東京市赤坂区一ツ木町

近衛歩兵第三聯隊第七中隊二

高橋善一

【本文】

拝復

益々秋耐の候と相成りました。長い間御

無礼申しましたのみならず、昨日は我々の何より

楽しみとしてゐます又待つて居ります「真友」

御送り下され忝重にも御厚礼申上ます。

村出身の勇士の多き事、高橋想像以上にて

実にこの多いさに驚きました。そして此の第一線

勇士の御苦勞実到我々厚く感謝に堪へん

次第であります。扱て我屯営での

最近の状況を二三申し上げます。

去る十八日より五日間に涉りまして下志津

習志野ヶ原に於て大隊教練の検閲を実施

されました。我大隊は下志津より習志野に向

つて十二裡に渉る深き陣地の攻撃を実施しました。

騎兵と工兵と戦車の協同を得て、特火点攻撃

敵前渡河を行ひ戦車に伴ふての突撃を行ひ

騎兵との戦闘（白兵）を行ひました。常に道の悪しき

千葉の原野に降雨続き、道は川と化し

堆土は泥道と變じ実に秋季演習以上の演習

を行ひました。是又異状なく終了しました。何卒御安

心下さい。今は連日来る師団狙撃競技会出場射手

の練習射撃にて毎日三十発位の実砲を大久保射場

にて射つて居ります。これが終わりますればいよ／＼

十月廿日満期統いて演習召集と相成る模様にて

御座ゐます。本年度の秋季演習は新聞紙上の

報道する如く十一月八日は天覧演習の御予定にて

御座ゐます。そして我々もこの演習に参加の予定

にて御座ゐます。我々の光榮全く感極に

達し今より準備中にて御座ゐます。その一として

毎朝間稽古としまして、十裡内外の行程を行軍又

は急行軍を行ふて居りますれば、先づ落伍者

も相当減らせられる事と思ひます。

これが演習は富士の裾野との事です。

さて村も天下わけめの取入れ時にて御座います。

村の手も相当少なく相成りまして実に御困りの

事にて御座ゐませう。又第一線の勇士達も

寒く相成り始めました。凍傷やら何やらでいよ／＼

御困りと相成りませう。御同情に堪へません。

先生元氣旺盛御努力下さい。

村青年のために。乱筆で御座ゐます。

御赦して下さい。先は御礼申し上げます。

旬々

九月廿四日

高橋

高橋先生

二伸

青年学校の方にも長い事御無礼

申しました。先生より宜敷御願申します。

青年学校へ擲弾筒の演習弾を

御送りしやうと思ひましたが、遂引上げられました。後で御送りします。よいのが

ありませんので仲々送れません。

其の中には出る事と思ひますから

御願申します。

23 【はがき表】

岩手県和賀郡

藤根村字後藤

高橋 峯 次 郎 様

近歩三―七―二

高橋善一

【はがき裏】

拝啓

久しき間御無音申しました。

其の後先生御障りありませんか、

御伺申します。高橋事相変らず

元氣にて、本夕二十三時発秋期演習のため

静岡山梨県にて行はれます。御陰様

にて元氣旺盛出發致します故御安心

被下度御願申します。二週間の予定

のところ通合によりまして十日間と相成

りました。急ぎます故失礼ながら粗文にて

出發の御挨拶迄。

24 【はがき表】

岩手県和賀郡

藤根村字後藤

高橋 峰 次 郎 様

静岡県□原郡

高岡村字□宿ニテ

小野部隊石動隊

高橋善一

【はがき裏】

拝啓

其の後御変りありませんか。高橋事

相変らず元氣にて三十日より当静岡県にて

演習をやつてゐます。諸兵迎合し演習も

終り今日は滞在です。明日より聯隊□□

に入ります。沼津市にも一泊しました。

今年は昨年のように雪が降る様な事

もなさそうです。雨もまだ降りません。

此分なら仲々の好演習日和です。

例によつて「マメーツ」も出ぬ元氣ですから

御安心下さい。先は乱筆ながら演習地より

の御一報と致します。

25 【はがき表】

岩手県和賀郡

藤根村字後藤

高橋 峯 次 郎 様

高橋善一

【はがき裏】

拝啓、帰省中は一方ならぬ御迷惑相成りました。

昨夕七時無事上野駅着以後無事屯営に帰隊

致しました。何卒御安心下さい。出発に際しましては

悪路態々御見送下され、高橋如き者誠に

申訳ありませんでした。いよいよ本日は被服の反納^(返納)

致し今は何もありません。着たままです。

いよいよ明日頃は、他隊に参る事と思ひます。

そして発は何時かまだ分かりません。

細かなる事は後便にて申し上げます。

先は粗事乍ら御礼方ニ到着御報告迄

先生の御健康を祈ります。

26 【書簡】

岩手県和賀郡藤根村字

後藤

高 橋 峰 次 郎 様

【封筒裏】

近歩一ノ二大隊本部

高 橋 善 一

【本文】

拝啓

其の後変わりありませんか。高橋事相変わらず元氣にて

来る可き出発の令を今か／＼と待機中です。

帰省中は一方ならぬ御厄介に相成りのみならず、

出発に際しましては遠路態々御見送り下され再三再四の

御迷惑に申し訳ありません。呉れ／＼も御篤礼申し上げます。

御陰を以ちまして無事帰隊致しました。其の翌日一日原隊に居りまして、その翌日近歩一に転属しました。そして九段の靖国神社の境内に於て各所属中隊を示され、接種を行いました。その結集前に申し上げました通り、牛嶋部隊等間部隊本部に属しました。

そして直に新品の服を着懐かしい星章とも別れ赤い鉢巻きとも別れました。今は中折帽の改造した様な戦帽です。そして夏服に裏のついた冬服を着て居ります。

動員計画によりまして薬布団二ツに三名寝台なしの床に起居して居ります。

我が本部には歩兵十七名、衛生部兵下士兵五名、獣医部下士一名外全部輜重兵特務兵です。火力兵器が割合に

少いが然し各中隊こそは全く優秀なる新式兵器が支給になりました。やはり南支には相違ありません。

防□手袋□面蚊帳等の準備をしました。

勿論防毒面(九五式)も新式のものです。準備は仲々新式のもので今迄且つて使用した事のないものが支給になりました。

出発は多分三〇日位になるが或は廿六七日頃らしく御座りますが、地は南支広東付近かと思ひます。秘になつて居りますので

書く事も出来ぬのでありますが、先生にのみ特に御知られ申したく思ひまして遂書きました。彼地に行きましたなら、

又送ります。そしていよいよ高橋も彼地の土を送れる事が

出来ると思ふて喜んで居ります。必ず送ります。

軍装検査は廿二日行はれ、始めて近歩一の軍旗を拝し陸軍大臣の臨場を得、訓辞を戴き我々の光榮之に過ぎ

る事はありません。皆と張り切つて待機して居ります。

又第四、八、十二、中隊機関銃、歩兵砲中隊、輜重兵が営外に起居

野蛮的です。

大都市〇〇も我軍の攻撃のため目茶苦茶に打碎かれましが、今はボツ／＼復旧作業中です。

大きい民家はみな皇軍の宿舎化して居ります。

この〇〇市郊外に一夜露営しましたが、実に無気味な感じがしました。今はこの市街より北方〇〇〇〇〇〇〇〇里のところ

に〇〇にて夜営中です。此の附近はまだ治安が確立されて居らぬため物騒です。毎晩、銃撃迫撃砲声が聞こえます。

過ぎし戦場には尊き犠牲者の墓標が樹立して居ります。

我々はただ深謝すると共に之か復讐を誓ふのみです。

支那語の分らぬのには閉口します。でもボツ／＼子供等を使って文字で研究中です。

さて、一番困るのは水が悪いため、みな軍の方より

自動車にて運搬支給されて居ります。

食物はまだ続きます。御安心下さい。

さて、此の手紙の着きます頃は第一線最前線にある事と思ひます。

尚南支に来て居る者高橋理平さん兄弟がさうだと記憶にあります、部隊名が良くわかりませんが

弟（保）に知らして手紙にて書かして頂きます。

此之地迄来る道中も一生懸命兵隊と云ふ兵隊の顔を全部見ましたが遂に見当たりませんでした。

では先生乱筆御免下さい。

益々御身の健康を祈ります。

高橋善一

高橋峰次郎様

尚々、先生の希望して居られます土の件、

上陸地の川砂と現在地の土を同封しました。御笑納下さい。

詳細なる事書けませんので残念です。

29【はがき表―軍事郵便】

岩手県和賀郡

藤根村字後藤

高橋 峯 次 郎 様

南支派遣桜田部隊

牛嶋部隊笠間部隊本部

高橋善一

【はがき裏】

拝啓

其の後益々元気です。

愈々第一線の中の最前線に出ます。近日に

仲々の元気です。御安心下さい。

何処迄行っても支那は矢張り

支那です。臭い汚いところばかりです。山から山へと行軍

です。糧秣四日分持って

朝は七時半漸く明けて夕は

七時頃になって赤い大きい日が

急に落ちます。

昼間は蠅、夜は蚊に襲は

れます。蠅取紙と線香の

大繁昌です。益々寒くなる

折柄、御身御大切に。敬具

30 【はがき表―軍事郵便】

岩手県和賀郡

藤根村後藤

高橋峰次郎様

【はがき裏】

謹啓益々御活躍の段奉慶賀候。

陣容時局重大を加へ長期抗戦を予想せらるるの時小生今般出動の天命を拝したるは誠に軍人の本懐に御座候。

御陰を以て海陸共無事任地に到着仕り

新任務に服し居り候間御安心被下度。今

後は益々一死報国の覚悟を以て東洋壱

圓の和平確立の爲め微力乍ら日頃の鍛錬を

遺憾なく發揮致し奉公の誠を尽す覚悟に

御座候へば益々御声援の程懇願仕候。

尚時節柄各位益々御健康に御留意遊され度。

先は略儀乍取敢御挨拶申述度如斯御座候。

敬具

昭和 年 月 日

南支派遣桜田部隊

牛嶋部隊笠間部隊本部

高橋善一

31 【書簡―軍事郵便】

岩手県和賀郡

藤根村後藤

高橋峰次郎様

【封筒裏】

南支派遣桜田部隊

牛嶋部隊笠間部隊本部

高橋善一

【本文】

立派な国道の様な道路もみな壕を掘つてあります。

我軍の追撃が出来ぬ様にするためであります。

歩兵のみどん／＼追つて夜は十一時迄それより翌二時迄

休みて飯を炊き又々追います。敗残兵等は手も付けません。

敵部隊を追ひます。大晦日の日一部隊に遭遇遂元旦

も弾雨下にて御座りました。初日之出は大隊長以下

大隊全員陣地より帝国に向つて遙かに樺銃万才を

三唱しました。再又応戦三日迄弾の来ぬ日は一日もあり

ませんでした。之れも敵退し〇〇方面に敵を追ひ

いよ／＼第二次の作戦に入らんため方向を反へて

再び上陸地点に引返し乗船、今船中にあります。

戦場の常たる食糧缺乏には全く困りました。三日間甘蔗の

汁で戦ひました。携帯食糧は勿論なく以後漸く支那米と

岩塩を見付けてポロ／＼の支那飯に薄黒い大粒の

岩塩をなめて戦闘しました。

いざとなればなんでも食へますね。

誰も云つて居ります。内地米なら副食要らぬと。

いよ／＼今度着くところは国境近くとの事です。

元氣旺盛ですから御安心下さい。

次の戦闘準備のため又々忙しく乱文になりました。

わからぬところは御判読下さい。

負けた国のあはれさを見せつけられ、
必ず勝ちますから御安心下さい。

先生御身御大切に御自愛の程御祈りしまして
年頭の一言とします。

一月七日

高橋善一

高橋先生

32【書簡―軍事郵便―】

岩手県和賀郡藤根村字後藤

高橋峰次郎様

【封筒裏】

南支派遣桜田部隊

鈴木部隊一駒部隊本部

高橋善一

【本文】

拝啓

真友一月号有難く四月廿日頂戴致しました。

御厚礼申し上げます。今更に申す迄もなく真友を拝見する

第一線の誰もが感じる事でせうが実に村に帰り、

知人と語り朋友と話すと変りなく村の全てが知られ

ます。諸勇士の帰還、諸戦士の晴れの征途としての状況、

実に同大陸に居りましても特に愚輩如き独り離れの者

は、面会どころか相互の懐かしい手紙すら円滑に行かぬ

戦場の事、我が懐かしい諸勇士の消息さへわからぬのであ

ります。

真友は実に一度第一戦線に戦場のもつ特別の労苦
をなめられた先生の熱誠の編輯、必ずやこの^(欠)缺を補ふ
事の出来るのは必然にて御座ります。

誠に心から感謝致します。有難ふ御座ります。

扱て先生の御健在先ズ以って御喜び申上ります。高橋事
其の後共益々元氣旺盛です故何卒御安神下^(心)さい。

加藤清逸さんの居られました〇〇の〇江の対岸の部落に
居ります。仲々暑くなつて来ました。何もせず家の中に
居ても汗が出る位です。加藤氏も帰られたでせうか。

御伺い申します。それとも〇〇方面へ行かれたでせうか？

弟の手紙では帰るらしい様な話又御自身も同様

の話を居られました、同氏に会つてより三回討

伐に行きました。今は〇江のゆるやかな流の如くやつて

ゐます。元氣益々旺盛です。

立花村出身の阿部倉治君負傷との事誠に惜しい事

でした。彼は二中隊でありましたので長く会へませんでした。時々

会へば、兄弟同様楽しき一時を過ごして居りました。誠に

残念です。相当の重態との話です。

日一日と暑くなるのは南支のみならず我村も御同様

の事誠に農事の繁忙等御苦勞様で御座ります。

では先生益々御健康に御注意の程御祈り申します。

暑くなるにつけ益々元氣で御奉公します故御安心下さい。

乱文で恐れ入りますが、これにて御頂戴御礼と致します。

呉れ／＼も御身大切の程御祈り申します。 敬具

四月廿五日

高橋善一

高橋峰次郎様

33【書簡―軍事郵便】

岩手県和賀郡

藤根村後藤

高橋峰次郎様

【封筒裏】

南支派遣軍

桜田部隊鈴木部隊

一駒部隊本部

高橋善一

【本文】

暑中御伺申上ます。

先生、真友有難ふ御座ゐます。

討伐より帰りまして、昨日到着しました

真友によりまして、始めて久し振りの

村の実状を知りました。誠に有難ふ御座

ゐます。さて、炎暑激しく相成りし頃と

思ひます。先生を始め御一同様御変り

ありませんか、御伺申上げます。高橋事

御陰様にてその後共元気旺盛です。

他事乍ら御安心下さい。又○○に前進

します。此之次に御送りしますのは

今とは遙に異った○○方面です。

今日は夢唱に忙しく思ふ事も

書けません。ではこの次とします。

手紙の点検も今締切です。

この手紙が最後です。

では、御身御大切の程御祈り申します。

六・十九 敬具

高橋善一

高橋峰次郎先生

34【書簡―軍事郵便】

岩手県和賀郡

藤根村後藤

高橋峰次郎様

【封筒裏】

南支派遣軍

桜田部隊気付 鈴木部隊一駒部隊本部

高橋善一

【本文】

拝啓

盛夏之候と相成りました。御変りありませんか。高橋事

御陰様にて益々元気旺盛にて御奉公申して居り

ますれば、何卒御安神下さい。扱て、

先生及川長兵衛君も大陸に來られるとの事

思へ返せば我原隊であります。我懐かしい班長殿を

始め戦友も居る筈です。話によりますれば、

大陸の南端に來るかの噂濃厚です。

遠からず面会出来る様な気がします。

今から楽しみにしてあてにならぬ面会を楽しみに待つて

ゐます。及川君も長の炎熱下航海にいささか降参して

ゐる事でせう。

最近北支の戦友も中支の戦友とも連絡を切らして仕舞ひました。何せ討伐だ、それ作戦だとして手紙の材料が手に入らず、遂に御疎遠にしたもんですから……。

さて先生、生れが水呑み百姓、最近弟よりの手紙に今年も作柄良好との報、何より嬉しく拝見致しました。

先生、仲々御暑い事で御座るませう。

仲々暑さが続きます。○月○○○日の日記帳より引張って書いてます。今日も朝からむか／＼照って

来ました。しかし今日は幾分風が吹きさうです。

バナ、の葉がひら／＼と大陸的に動いて居ります。

如何なる任務を負ふてか遙か○○○の方より荒鷲^(機)五キ

○○○方面を指して飛んで行きます。

早くも我部隊使用のクーリーが水を担ぎ始めました。

炊事用らしいです。炊事当番の「ニー快々のナア」の音が

してゐます。我々には良くなつた彼等は「大人慢々的／＼」

と独特の「ニヤ／＼笑ひ」を見せて又川の方へ行く。彼等も

○○○作戦の時は我軍に銃口を向けた正規兵です。

久し振りに釜炊きの飯が食べられる。飯盒炊はもう

嫌になった。「飯だぞー」太い高い声がした。

晴天下に支那式の大きな釜から麦飯が顔を

出してゐる。又一方の一釜は味噌汁だ、粉味噌作りだ、

中には南瓜のベト／＼が二切り三切れ入ってゐるだけだ。

それでも兵隊さんは飯がどん／＼進む。破竹の勢

とはこの事でせうか。朝から晩迄南瓜もベト／＼

ばっかりだが大丈夫食べられます。

遙か彼所より先刻の荒鷲が帰って来た。

任務果たしてか前より軽／＼しく飛んで来る。

○兵は云ふ。「翼の下○○がなくなつたぞ、矢張り○○をやつたな」

△兵「何処へやつたか聞えなかつたぞ」○兵「そうだよ、一時間半

にもなるのではないか。」×兵「矢張り戦争の花形は航空兵様の

様だね。」△兵「だからね、今度の次の応召の時は航空兵様様

になつて来やうと俺は思つちよるよ」と云ふ。×兵「ホー、君がかい。

飛行機も困るなあ、君の様な大きい男に乗られたら

真つ逆さに落ち易いぞ。ガソリンも「多々要」となるぞ。」

○兵「時局柄やめて呉れよ、頼むぞ。」皆んなドーと

笑つた。△兵も怒るわけでもない。戦場は何を言つて

も怒らぬ。笑つて事に当る事に決めてゐるのだ。

如何なる時如何なる場合にも……。

これは昨○月○日の日記帳より引き抜きました。

加藤清逸氏の居られました○○○より

北方四五里に来ました。

では先生乱筆にて出鱈目の落書を書きました。

先生満州を始め北中支の郷土兵達者で御座るませうか。

万一先生御手紙をこれらの兵に出されます折は、

末筆に高橋の健在なる事を知らして下さいませんか。

誠に恐れ入る御願であります但部隊名が良く分らん

ものですから御願します。では

先生時局柄御身御大切に程御祈り申します。

敬具

七・二九

高橋善一

高橋先生

35【書簡―軍事郵便】

岩手県和賀郡

藤根村後藤

高橋峰次郎様

【封筒裏】

南支派遣軍

桜田部隊気付 牛島部隊一駒部隊本部

高橋善一

【本文】

拝啓

先生御変りありませんか。高橋事益々元気旺盛御奉公
申し居ります故御安神下さい。懐かしい人久し振りの面会を致し
ました。実に異郷にて会ふ同郷人、しかも我等の指導員そして又
青年会の会長殿として御指導下さいました割田の加藤
清逸指導員殿に遂に会へました。

先生去る月〇拾〇日より討伐にて〇〇方面に行軍、
御陰様にて異状なく益々元気旺盛本討伐も終りまして
帰路にて御座りました。「住めは都」南支の果にてもやはり
根城として出た地は懐かしいものです。しかし相続く行軍に
疲れて待ちし休憩にてホッとしまして背囊枕に久し振りで
見られる青空を仰いだ。折から我部隊と反対の方向より
同様行軍の来る一部隊あり、何処の部隊かな？

知った人も居るわけでもない筈、良く見れば迫撃砲隊らしい。
途端考へ付いた事は、高峰先生より聞いて来た加藤清逸殿。
彼氏は迫撃砲だったな。そして点々と各部隊に配属になるとの事。
さては南支のこの一角にも彼氏の部隊が来て居るのではなしか。考へれ
ば考へる程その様な気がする。一伍、二伍、来る兵を一人残らず見つけ
た。

顔に穴のあく程。遙かの方向より眼鏡の兵近づく。近づけば近づく
程彼氏だ。加藤清逸殿である。

「加藤清逸殿」遂声をかけた。行き過ぎ様とした彼氏振向き、
「誰か、善一か」余りの珍しき、何から話さうかわからない。
話によれば、二回も負傷したとの事、「漸く命拾ひをしたよ」とて笑ふ
加藤指導員殿も高橋と同一作戦に奮闘されたとの事。

「今は〇〇部隊より配属がとかれ員数外になった。そして漸く帰還
になるらしい」との事。彼氏の駐屯して居りし〇〇は我々の駐屯して
居る地とは川一つ隔てたところであつたらしい。

拾五分間の面会である。加藤氏の部隊の後尾は遙か彼所の
山の合間に没せんとして居る。やがて我部隊の先頭の方で、
「出発準備」の声がして来た。別れが惜しい。しかしやむなき身と
身故「では余程注意して、しっかりやれ。マラリヤに罹るな。」

「では達者で御帰りなさい。村に帰ったら達者な姿で討伐から
帰る姿を見て来たと御伝へ下さい。」とて我は北へ、

加藤氏は南へと別れた。負傷したとは思はぬ程の元気で
意気揚々と引上げて行きました。高橋は今

加藤氏が居られました〇〇の対岸に居ります。幾回も書きました
通り至極元気です。何卒御安神下さい。

36 【書簡―軍事郵便】

岩手県和賀郡

藤根村字後藤

高橋峰次郎様

【封筒裏】

南支派遣軍

飯田（祥）部隊鈴木部隊

一駒部隊本部

高橋善一

【本文】

(なし)

37【書簡―軍事郵便―】

岩手県和賀郡

藤根村字後藤

高橋峰次郎様

【封筒裏】

南支派遣軍

飯田部隊鈴木部隊

一駒部隊本部

高橋善一

【本文】

拝啓

先生御変りありませんか、御伺申上げます。

村は懐かしい吹雪が窓を打つ頃にて御座ぬますが、

尚南支も漸く内地の九月(旧)初旬頃の気候と相

成りました。しかし夜間と相成りますれば、大陸的の

気候に左右され、とてもく厳しく相成ります。さて

先生愚輩事例の怠惰者事遂長い事御無

音致しました。差し上げ様くと思ひつつも

新聞紙上で御承知の事とは思ひますが、前の地○○を

撤しましたので長いこと同作戦のため、郵便局

が閉ざされました故発送の期なく書いて、現在

地迄背負ふてきました。誠に野戦は思ふ様に行き

ません。現在地に最近着きましたので書き直し

御送り致します。当地は海岸を距てる事

約 (墨消しとなつてゐる) □□□□ にして南支にて有名なる地にて彼の汪

政府以前の華□□○○先生の生の地にして

有名なだけに総てが進歩発展を致して居りま

す。現在居りますところは県政府所在地にして

相当の市にて御座ぬます。我宿舎の向ひは、保安

隊(□中央政府軍隊)があり飴売りラッパの様な

調べで吹奏して居ります。幼老交混し体軀不齊

にして皇軍とは全然其の比ではありません。

動作もだらしなく我青年学校生徒よりもだらし

なく見えてます。さて街は殆ど支那人街

にて日本人の商店街等は全然ありません。しかし

総ての物品が売買されて居り仲々高価な

値段を示して居りますが、又割引する事も驚く

程です。半額位になる事も珍しくありません。

バクチは至るところに行はれ、又古物商の多い事

又驚かざるを得ません。約一年振りで

電燈の光を仰ぐ事が出来ました。

大根も一ヶ年振りで味合へる事が出来ました。

バナ、も一本二三□位で買へます。

今年の年越しはここで出来ませう?

敵地ではありますれば油断が出来ませんが、

此処の近くでは敵兵の姿は見えませんが、

今迄のところ○○等では敵兵が山を登ったり下りたり

するのが見え、歩哨も見えましたが此処は

その様な事はありません。

先生、愈々寒気激烈を加へるの時、御身の御健康何より先づ御祈り致します。乱筆にて御座りますが戦線の変りを申しまして寒中御見舞と致します。

敬具

一五・一二・三

高橋峰次郎先生

高橋善一

38【書簡―軍事郵便】

岩手県和賀郡

藤根村後藤

高橋峰次郎様

【封筒裏】

東京第二部隊

一駒部隊本部

高橋善一

【本文】

謹みて

新春を賀し

上げます。

先年中は種々

御厚配を賜り

御厚礼申し上げます。

本年も相変らず

倍旧の御指導御鞭撻の程願上ます。

銃砲声の中に暮れてあの最前線にて

新春を迎へるの覚悟に御座りましたるが、命により我部隊は内地勤務に服する事と相成り、此之度帰還致しました。其の中の一員として不肖も帰還致しました。今第一歩を芝浦にふみつけました。何等の武勲とでもなくただ瓦全の身を以って御目に相掛け申すは誠に恥入る次第に御座りますが、近く御拝趨御礼申上げ可く取敢へず乱筆以って年頭の御挨拶と致します。

芝浦にて

一月三日

39【書簡―軍事郵便】

岩手県和賀郡

藤根村字後藤

高橋峰次郎様

【封筒裏】

東京二テ

高橋善一

【本文】

(なし)

40【はがき表】

岩手県和賀郡

藤根村後藤

高橋 峯次郎様

【はがき裏】

謹啓、時下春暖之候と相成候処、愈々御清祥之段奉賀候。

陳者私儀今般応召出発に際しては多大の御餞別を賜はり且つ遠路御見送被下誠に有難深謝奉候。東亜の重大なる時局に際し入隊の榮を得たるは誠に千載一遇の光榮にして男子の本懐之に過ぐるものはなく魂の躍動措く能はざるもの有之候。入隊の暁は一意、陛下の御為に粉骨碎身し平素の御高恩に報ずべく碎身致す覚悟に御座候。

大東亜戦既に赫々たる我が緒戦の大戦果により勝敗の数定まれりとは言ひ、今後の時局益々重大なるを思はせられ候。秋邦家の為御貴堂の御健勝切に祈上候。先は右御礼旁々御挨拶迄如斯御座候。 敬具

昭和十七年四月八日

(墨消しとなつてゐる)
□□□□□□□□

藤根村 高橋善一

41 【はがき―軍事郵便―】

岩手県和賀郡

藤根村後藤

高橋 峰次郎様

【はがき裏】

北支派遣軍勝五二二八部隊五十嵐隊

高橋善一

拝啓、農家一大作戦期たる大農繁期と相成りました。先生其の後長らく御無音のみ申しました。御障りの程御座りませんか。相変らず元氣にて御奮闘の事と遠察致して居ります。高橋も相変らず元氣にて、路中も恙なく現地に到着、大東亜戦の一翼を負擔せる

光榮に感激致しつつ御奉公に邁進致して居ります。他事乍ら御休心下されたく御願ひ申します。尚、千葉伍長殿も同小隊

にて同地に張り切つて御奉公致して居ります故何卒御安心下さい。麦の穂も黄色く柳の色もうつきり致し、初夏之候満点にて御座ります。以前の任地南支戦線の生活より遙に上々にて御座りますれば何卒御心配下さらず御願ひ申します。氣候も内地よりは相当の炎暑を感じて居ります。高橋あの銃後の総てを忘れ、千葉伍長殿と愉快に御奉公致して居ります。何れ封書は送られません。

例の事又ニュース相変らず御願ひ申します。青年学校の生徒にも其の方々にも御願ひ申します。御壮健御祈申上ます。

42 【はがき―軍事郵便―】

岩手県和賀郡

藤根村字後藤

高橋 峰次郎様

北支派遣軍勝五二二八部隊五十嵐隊

高橋善一

【はがき裏】

残暑殊の外厳しく御座ります。長々の御無音例の怠惰者なれば何卒御怒りなく御願ひ申上ます。北支もまだ暑く御座ります。

先生には例年になき炎暑と承る暑気をもとめせず、御勞き誠に御苦勞様に御座ります。小兵事尚も元氣旺盛御奉公に専念致し居ります。朗らかに……。何卒御安心下さい。村の近況大略粗雑多に弟より聞きました。尚我に残された一つの問題まだ解決に至らぬらしく御座ります。朗らか生活を

営む小兵もいささか気になります。高橋重夫君は御承知と思ひますが立派な準国の礎石となりました。応召時は二人揃つて未知だった弘前の夜景を散歩致し遂道迷つて反対の方に行つて居りました。

その思出も亡き戦友を偲ぶ一つの噂話となろうとは……。

ハガキがなかったので田中の勘二君と会へたのでスネをかじつて貰つたのがこのハガキです。仲々手に入らず困つたところ従兄に逢つたので、この時とばかりに貰ひました。仲々元氣でした。星二ツになつて□□□□
□千葉伍長殿張り切つてゐます。舅の話で耳にたこが出さう□□□□。
青校生徒諸君にも宜敷御願致します。又ニュース□□□□。

43 【はがき―軍事郵便】

岩手県和賀郡

藤根村後藤

高橋峰次郎様

北支派遣勝五二二八部隊五十嵐隊

高橋善一

【はがき裏】

先生、其の後御障りありませんか。天高く馬肥ゆるの候。

そして御多忙、御多忙の秋と相成りました。ここ北支もその

通りにして御座ゐます。久しき間の御疎遠例の事、

何卒御赦し下さい。善一奴は相変らず元氣にて御奉公

致して居ります故何卒御安心下さい。ここ長らく〇〇に行

きまして遂思はぬ御疎遠致しました。その際加藤寛君、

高橋万之丞君に会へました。高橋栄、及川忠志両君は

行きませんでした。加藤寛一君も、善一奴もこれにて漸く

全支の各方面各一端づつ見る事出来ました。南京豆の採取に

多忙を極めて居りました。冬作物も相当良く出来て居りました。

赤い大きい太陽が西方地平線の彼方に没する時、牛追ふ「迹奴」の声高く白壁の光殊の外強く、実に何物か胸に刻まれました。

稲刈りもボツ／＼でせう。忙しいで御座ゐませう。御苦勞様です。

もう善一奴何も考へる要ありません。ただ御奉公あるのみにて御座ゐます。先生、キタの件解決まだらしいのですが、もう一刻も早くきめて貰ひたいと家でも笹間にも言つた筈なのに？。もう帰つて貰ふ氣です。さう決心しました。宜敷御願申します。では御身御大切に御祈り申します。

44 【書簡―軍事郵便】

岩手県和賀郡

藤根村後藤

高橋峰次郎様

【封筒裏】

北支派遣勝五二二八部隊

五十嵐隊

一駒部隊本部

高橋善一

【軍事郵便本文】

拝啓、寒氣益々深刻化して来ました今日此之頃、

先生には御障りの程御座ゐませんか御伺い申上ます。御陰様にて

弱輩益々元氣にて防寒服に身を固め「頑敵よ何に糞」と

物凄く頑張りを見せて居ります故何卒御安心下さい。

千葉班長とはここ当分（一ヶ月）会ひませんが、御同人の例の

御氣性事素晴らしき元氣の模様です。田中の勘二君

□拾日位前に会ひました。又々大の元氣で頑張つてゐます。

十七年の月日も薄らいで来ました。今日捨弟（舎弟）からの手紙

拝見致しました。現役応召頂戴致したら入団割合^(遅れ)後れた

九月一日だと。青年学校教練査察の講評^(満)万点との事

例の先生の御活躍の結果の榮譽なりと善一奴衷心より

感謝致します。御努力御苦勞様で御座りました。

それから、農況の朗らかニュース、青年団の話やら

稲作、まだ終へぬが「大の男保があるから安心せ」との

力強いニュース。入団が^(遅れ)後れた弟事海軍としては金槌組の

弟なればと心配してゐたら、来年の夏は猛練習をやるとの事

幾分安心出来る様な気がしました。

南支よりは寒くとも此国男子だけに住み良い様だ。

マラリヤをやらんだけでも何程良いやら。松之木が点々

とあるので来年の正月も門を作るにようだろうか？

等々語り子供の時の正月の様に待ち切つてゐる。

母が生きて居られたら……と、弟幼い妹等を思ふ時

胸に何か迫るものあり……。然し御奉公に差支へる行動

は致しません。御安心下さい。女手一ツない家庭なので……。

谷間の方に砲声あり。松の梢を吹飛ばす寒風に和し

凄く響く。それでも今日は割合暖い日だ。「十月小春膝かぶ

出はる」虱取りに総動員だ。では先生時節柄

御身御大切に。新ニュース御願致します。

尚来る新年には賀状通合上失礼致すやも知れません。

無礼勝手に御座りますが何卒赦して下さい。

前以つて御赦しを乞ふ次第です。何卒

明年も倍旧の御指導御援助御願申上ます。

敬具

高橋善一

高橋峰次郎先生

尚々弟保に何卒立派に入団出来る様尚
海軍の知識皆無なれば宜敷く御指導を
仰ぎたく御願申上ます。

45 【はがき―軍事郵便】

岩手県和賀郡

藤根村後藤

高橋峰次郎様

北支派遣勝第五二二八部隊五十嵐隊

高橋善一

【はがき裏】その1

高峰先生、旧年中は何から何に至る迄の御厚志誠に

有難ふ御座りました。更に大東亜決戦迫る十八年の新春

を御祝申上げ、そして何卒く倍旧の御指導と

御鞭撻を賜りたく篤願致します。

先日は又御鄭重なる「真友」頂戴致しました。誠にく

有難く御礼申上ます。早速千葉軍曹殿と

二人で花を咲かせ実を結ばせての長談話の

因となりました。誠に村の近況、自分の様に手紙の

□い、来るのは弟のみの自分としては全く村を知る否

内地を知る唯一の便りです。全く感慨無量です。

有難ふ御座ります。御陰様にて村の近況知りました。

46 【はがき―軍事郵便】

岩手県和賀郡

藤根村後藤

高橋峰次郎様

北支派遣勝第五二二八部隊五十嵐隊

高橋善一

【はがき裏】その2

昔沼義平殿と漸く連絡がきました。纏て……と書いてありました。此処北支は雪がまだ来ません。氷はどんく厚くなつてゐます。俵に入つた餅を食べました。餅の好きな自分なればいよく、以て十四年に帰省した時、先生の家で御馳走になつた餅の味覚、舌にペロが流れて来ます。

俵入れの餅は味が正気ではありませんがそれでも

仲々美味しくありました。十二月^(墨消し)□□した田鎖叶君、

どうやら会へそうです。この事昔の隊の戦友

君聞かせて呉れました。まだはつきりは致しませんが、

先生先年は厄年らしかった。本年こそはもつと

益々張り切つてゐます。これ位の寒さなんのその……。

妹二人元気で学校へ行つて居りませうか？

47 【はがきー軍事郵便】

岩手県和賀郡

藤根村後藤

高橋峰次郎様

北支派遣勝第五二二八部隊五十嵐隊

高橋善一

【はがき裏】その3

一人だけになつた父親はどうしてゐるでせう。相変らぬ

元気でゐる事とは思ふが……。弟の手紙は何時も

元氣又元氣、案じられます。親不孝者も……。

あとは何も心配してゐません。楽しく御奉公してゐま

す。どんな事があつても平気です。

これも先生銃後の力の強さを物語るぢやないでせうか。

実に先生の御恩忘れません。

ビューと吹来る寒風に燈が二回三回消されました。

もうマツチもなくなりました。これで今夜はいろくど

夢を見ると致します。先生益々御壮健を祈ります。

青年学校も先徒諸君にも元気でゐると御伝へ願ひます。

乱筆御赦し下さい。

48 【はがきー軍事郵便】

岩手県和賀郡

藤根村後藤

高橋峰次郎様

北支派遣勝第五二二八部隊五十嵐隊

高橋善一

【はがき裏】

拝啓、暖くなりました。先生其の後は御変りありません

か。御陰様にて善一も「春駒」の様に元氣です。御安心

下さい。千葉軍曹殿も大した元氣です故此の点も

何卒ぞ。さて、戦勝くの本年も四月に入らんと

して居ります。如何でせう。村の諸勇士の消息は、

捨弟の手紙で「雪は一尺位になつた□□□□激」との事。

当方今頃は懐かしい黒土が顔を揃へた頃にて御座ゐ

ます。愈々農事戦線も激烈を極められて居る事

にて御座ゐませう。誠に御苦労様にて御座ゐます。

此冬北支も漸くの春です。かアく烏の啼声も兎馬の

耳にも春らしき動きが見られます。しかし向ふ側の

山の谷間に白きもの見えます。それは春とは云へど
まだ解けやうともしない水の流れです。先生、村の近況
余暇に一筆御願します。御壮健祈ります。

49 【書簡―軍事郵便―】

岩手県和賀郡

藤根村後藤

高 橋 峰 次 郎 様

【封筒裏】

北支派遣勝五二二八部隊

五十嵐隊

高橋善一

【本文】

先生

御変りありませんか。

御伺申上ます。

御陰様にて善一

春駒の如きピン／＼

元気にて御奉公申して居ります故

何卒御安心下さい。

御無音のみ申して

居りましたる中に遂

思ひ出多い四月八日

今日です。あの日の

駅目頭に浮かびます。村の近況御多忙

づくしで御座るませう。銃後の御奮闘誠に／＼

御苦勞様にて御座るます。今年の威勢

良き豊作を一歟目の春から只乍御祈り

申します。北支も漸くの春となりました。

子供の頃だったら風でも揚げたい様な風が

吹いて居ります。草の目もアチラ、コチラ、ホンノ一分

頭を持ち上げましたのも懐かしいです。

漫々の主義の世界的代表者と自他ともに任

じて居ります仲間、老百姓もノソ／＼と歟を

振り始めました。さて千葉氏も大した元氣

です。惜しい事勘二君半六君とは相当離れて

居ります故消息つかず。他方元氣の事

と思ひます。村の諸勇士の快くあり

ますか。青年学校の若い勇士は如何でせう。

今年もと大いに張り切つて居られませう事とは

御遠察申しては居りますが……。

遠く支那馬の泣声聞えます。兎馬の耳も

やはり春です。泣声も春です。

総て春です。自分の心も春らしく思はれます。

「現役当時の南支戦線当時と寸毫変らぬ」

と申しても過言でなさそうです。愉快に

やつてゐます。その方が一番良いですし、

何も彼も打ち忘れ「明朗な今日も明日も」

早く「西瓜の転ぶ夏、そして茄子の味覚、その中

に柿ぢやそれ聚よと味慾に追ひつ追はれる日」

こんな事以外に願中何ものもありません。

愉快にそして一日も早く御国のため全世界のため

大東亜戦完遂の一翼を果す可く奮闘致……し、

御老体を引張つて御奮闘の先生の殊勲……申すま□

御苦勞様にて御座ゐます。御壯健北支より祈ります。

北支派遣勝第五二二八部隊五十嵐隊

高橋善一

50 【はがき―軍事郵便】

岩手県和賀郡

藤根村後藤

高橋峰次郎様

北支派遣勝第五二二八部隊五十嵐隊

高橋善一

【はがき裏】

拝啓、すっかり暑くなって仕舞ひました。

其の後先生御一家何んの御変りも御座ゐま

せんでせうか。弱兵相変らず元氣旺盛御奉公

申して居ります。他事乍ら何卒御安心下さい。

これみな銃後の皆々様方の御厚志の賜と深く感謝

致して居ります。後れ^(遅れ)ましたが、先日新聞有難ふ

御座ゐました。郷土の懐かしいあれが早速御礼状

と思ひましたが暫く御疎遠致しました。これもみなく止むを得ぬ

事情での事悪しからず御赦下さい。先日弟

よりの手紙により又叱驚致しました。志賀の

久幸君誠に何と申せば良い事でせう。善一は

申し上げる言葉がわかりません。最近ずいぶん

続きます様。千葉軍曹殿も元氣です。

51 【はがき―軍事郵便】

岩手県和賀郡

藤根村後藤

高橋峰次郎様

【はがき裏】

北支も随分暑くなりました。村の方も冷寒害で

なさうでせうね。先生、もう今年あたりはソロ／＼

やって来る頃ではありませんか。縁起でもない事を

申しました。大丈夫です。今年この北支の麦の収穫大した良かったで

す。

さていよいよ九月も近づきつつあります。愚弟も

愈々入団の日迫って来ました。弱兵海軍はわかりません。

先生どうか準備教育御願申します。

そして立派に御奉公の出来ます様御願申します。

セミがみ／＼鳴いてゐます。寄らうとせど寄る可き

木なく、ただ草の弱き葉に軽ふじて翼を休める。敗戦に

敗戦を続ける中国の蟬誠に情けなく見えます。

やはり戦には勝たねばなりません。石にしがみついても。

この通の元氣です。御安心下さい。青年学校の

生徒諸君にも宜敷御願い申します。御壯健御祈申します。

52 【はがき―軍事郵便】

岩手県和賀郡

藤根村後藤

高橋峰次郎様

北支派遣勝第五二二八部隊萬隊

高橋善一

【はがき裏】

先生、久しく御疎遠申しました。御察しの様なる

止むに止まれぬ^(郡)通合上誠に申訳ありませんでした。
その中に物凄^ひい厳冬に相成り北支も防寒服と
再び仲良くなりました。内地は如何でせう。白い
綿花がやつて来たぢやないですか。

御身体には御変りありませんか。弱兵も御陰様
で恙なく呆れつゝ、あります故何卒御安心下さい。

愚弟保も元気で御奉公と拾月拾日

初信を受けました。初年兵は忙しいんですからね。

横志田の高橋良一君行きませんでしたか。

奴さんうまく行きましたよ。千葉班長殿も

大の元氣、半六君もなんとく大元氣。

取り残された渋柿段々畑の頂上で厳寒に

ゆすぶられてゐます。御壮健祈り申します。

53 【はがき―軍事郵便】

岩手県和賀郡

藤根村後藤

高橋峰次郎様

北支派遣勝第五二二八部隊萬隊

高橋善一

【はがき裏】その1

明けまして御めでたう御座ゐます。本年も相変

らず御願^(上げ)申上ます。先生其の後御障りの程

御座ゐませんか。高橋益々張り切つて居ります。何卒

御放心下さい。さて、申^(申し後れ)後れましたが先日は報道王たる

真友^(申し後れ)ありがたう御座ゐました。新年早々村の現況

を知り何より嬉しく御座ゐました。先日漸く

一ヶ年振りにて伊藤年男君に会ひました。^(上等)上卜兵
に進み相変らぬ真黒になつて御奉公申して居り
ました。何卒御安心下さい。真友が来たと大喜び
で居り二人で暫らく拝見致しました。一夜同君の隊で
泊めて(〇〇の都合で)頂いたので話も相当出来下給品
の薬酒を飲めとすすめたら飲める筈の奴さん

54 【はがき―軍事郵便】

岩手県和賀郡

藤根村後藤

高橋峰次郎様

北支派遣勝第五二二八部隊萬隊

高橋善一

【はがき裏】その2

遠慮をしてホンの少しナメタだけ。昔の伊藤

の様ぢやないなあと笑つてやりましたら「もう沢山

デス」如何にも兵隊らしくなつてゐました。青年学校

当時の伊藤ではありませんでした。懐かしかったです。

時々同隊に行きましたが仲々会へませんでした。

千葉班長も元氣らしいですが、当分別れてゐます。

然し間もなく又会へませう。弟保も入団後は仲々

村の状況知らせる人ありません。先日妹トモエが

手紙をくれたので涙の出る程喜び見ました。雪が少

いとこの事、家内一同の健全を聞き何より嬉しく弟に

早速知らせました。弟も頑健に御奉公との事、

先生御安心下さい。北支も雪に覆われました。

55 【はがき―軍事郵便】

岩手県和賀郡

藤根村字後藤

高橋峰次郎様

北支派遣勝第五二二八部隊萬隊

高橋善一

【はがき裏】その3

北国兵隊全部喜んでゐます。「正月気分万点」^(漢)
だとして……形ばかりの新年の御馳走も終つて
いよいよ決戦段階の拾九年の行事に向つて猛進
しつつあります。御安心下さい。

ピュー／＼と吹き付ける厳風は畑中の□の

あの広い耕田から吹く風を思ひ出させられてなり
ません。もう旧の正月も来しました。

藤根村の正月はどんなもんでせう。時局下

だけにハゲた先生や畑中の善子親父の

のどをうるほすのが十二分でせうか、思ひやられます。

では乱筆でくだらぬ文句の綴書御判読下さい。

御壮健祈ります。青校にも御頼申上ます。

56 【はがき―軍事郵便】

岩手県和賀郡

藤根村後藤

高橋峰次郎様

北支派遣将第一四六三部隊小野寺隊

高橋善一

【はがき裏】

高峰先生

御多忙の機其の後一向に御疎遠のみ申しました。

^(悪しからず)
不悪らず御赦面下さい。^(免)

先生御変りありませんか、御陰様を以ち

まして善一益々壮健御奉公申して居ります。

扱恐れ入りますが

当分の間御送信御断り申します。

纏て御詫び申します迄

決戦段階の進展刻々なる時、先生始め

御壮健御健闘を只乍御祈り申します。

では取敢ず。

不一

57 【はがき―軍事郵便】

岩手県和賀郡

藤根村後藤

高橋峰次郎様

北支派遣将第一四六三部隊

布施隊(教) 高橋善一

【はがき裏】

拝啓、久しき間の御無音御赦し下さい。さて

先生には其の後御障りありませんや御伺申上ます。

御陰様にて善一も元氣旺盛御奉公申し居り

ます故何卒御安心下さい。さて先生、

石川^(与)よ四郎、伊藤林之助両君に面会以後

起居を共に致し居ります。千葉末喜殿とは

当方別れました。然し当方にて御座ゐます。

迎える大不運こそ御承知下さい。

石川、伊藤両君には毎日／＼文句を言わねばならん立場にあり、然し心強きを感じます。

御安心下さい。彼等も元氣旺盛一二／＼

で頑張つてゐます。御安心下さい。では先生

乱筆は例の事、多忙の事にして止筆します。

58 【はがき―軍事郵便】

岩手県和賀郡

藤根村後藤

高橋峰次郎様

北支派遣将第一四六三部隊

布施隊(教) 高橋善一

【はがき裏】その1

拝啓、暫らくの間御疎遠のみ申しました。其の後、先生には御変りの程御座るませんか御伺申上ます。

御陰様にて高橋も元氣旺盛御奉公申し居り

ます故何卒御安心下さい。北支もすつかり

夏となりました。小麦も黄金色を呈して居ります。

氣の早い辻間は刈り始めました。村も今が大繁忙期

誠に御苦労様にて御座ります。

然し戦争完遂のためです。大いに頑張つて下さい。

さて先生、青校の現況如何にて御座りますや。

時局下青年の覚悟も又大したもので御座る

ませう事遠察致して居ります。

当方、伊藤林之助、石川与四郎君とも

大した元氣で張り切つて居ります。

59 【はがき―軍事郵便】

岩手県和賀郡

藤根村後藤

高橋峰次郎様

北支派遣将第一四六三部隊

布施隊(教) 高橋善一

【はがき裏】その2

千葉末喜君も元氣らしい。その中には又一緒になりませうが、当分別れて居ります。尚半六君、

田中の勘二君、伊藤年雄君とは別れました。

田鎖叶君先頃ポツリと会ひました。真黒に

元氣で居りました。現在石川君等と一緒に連中

で横川目、笹間、江釣子と近所のもの多く

黒沢尻の菊池茂民先生の弟も自分の班に

元氣で奮闘して居ります。世の中は広い様で

案外せまいもんとつく／＼思はせられました。

もう高橋も相当の月日たちましたがまだ／＼

御奉公致します。郷里の事は全部銃後に

御願しましたのです。家の事は全然夢にも見ません。

軍人て御面白い心境になるもんですね。

60 【はがき―軍事郵便】

岩手県和賀郡藤根村

後藤

高橋峰次郎様

北支派遣将第一四六三部隊

布施隊(教) 高橋善一

【はがき裏】その1

先生御忙しいところ乱筆走らせ申します。

ああ、楽しさうな田植の声、蛙の騒ぎここ北支では見られません。

忙しい乍らも働き可^(か)輩のある田植の有様目にちら／＼と。

時に先生御変りありませんか。高橋も相変らず素晴らしい

元氣さでます／＼やっております。御安心下さい。それから――と

伊藤林之助君、石川養四郎君、田鎖叶君ともに元氣。

伊藤、石川も立派な一人前になりました。先生から各家庭の方に

御伝言下さらば、至好と存じます。尚伊藤君の妻君事

いよ／＼御慶事と承りましたが、伊藤君の話によれば未だ入籍し非ず

切符とか通帳とかで困つてゐるらしいとの文面あるとの事。

もう今頃は処置せられた事とは思ひますれど老馬身^(老馬心)乍ら、

伊藤君の心境を聞いての一言を御伝へ申します。

この様な事吹聴する迄もなき事乍れども、□観の□を払つての

御奉公をなす上に於て先生より適当なる御処置の程

に願申上ます。直接末蔵殿へ申上げて下されとの願ひで

61 【はがき―軍事郵便】

岩手県和賀郡

藤根村後藤

高橋峰次郎様

北支派遣将第一四六三部隊

布施隊(教) 高橋善一

【はがき裏】その2

ありましたが取敢へず先生に申しのべる次第にて

御座ります。

北支も炎熱千葉軍曹さんも仲々元氣らしいです。

長沼の高橋安雄さん近くに居るとの事拝聴しましたが、

未だ面会して居りません。その中には必ず会へると思ひます。

もう次便からは「萬隊」として御願します。

刻々と差し迫る決戦下銃後産業戦士の御武運の長久を

御願申上ます。青校生徒諸君にも宜敷く願います。

尚先生、高橋は海軍の方わかりません。弟の入つて

ゐる学校はどう云ふ性質のものでありませうか。

御知らせ下されたく御篤願申上ます。

いよ／＼満病勇猛となるの時、先生始め

御一家様の御壮健御祈り申上ります。敬具

62 【はがき―軍事郵便】

岩手県和賀郡

藤根村後藤

高橋峰次郎様

北支派遣将第一四六三部隊萬隊

高橋善一

【はがき裏】その1

拝啓、柿の色もナツメの色もそして又盛んな

麦播き準備の途間の動作にもすっきり

濃厚なる秋色に塗りつぶされました。

遂に怠けました。長々と御無沙汰申しました。

先生御変りありませんか、御伺申上ます。

御陰様にて善一も何等変る事なく張り

切つて御奉公申して居ります故何卒御安心

下さい。尚千葉末喜さんも元氣旺盛

なんと／＼たいした張り切り方です。此之点も

何卒御安心下さい。尚伊藤林之助君、石川与四郎君とは一人前になりましたので御別れました。然し同じ部隊内ですから

63【はがき―軍事郵便】
岩手県和賀郡

藤根村後藤

高橋峰次郎様

北支派遣将第一四六三部隊萬隊

高橋善一

【はがき裏】その2

度々会へる事と思ひます。先刻迄は恐ろしい程元気で居りました。御安心下さい。各家の人々にも御伝へ願ひます。

村の様子さっぱりわからなくなりました。

先生時々御願致します。聞くとところによれば

高橋安雄さんも元氣のことらしく、

尚高橋貞吉さんそれにゴリンの市助さん

も此処近くに居り元氣との事です。

御安心下さい。内地の空も赤トンボうるさいとの事、

それに増産く誠^{まこと}に御苦勞様にて御座ります。

猫の手も借りたい頃先生御身御大切に

張り切って青年層教育御願申します。

学校の生徒諸君にも宜敷く願ひます。

64【はがき―軍事郵便】

岩手県和賀郡藤根村後藤

高橋峰次郎様

北支派遣将第一四六〇部隊

高橋(慶)隊 高橋善一

【はがき裏】

高峯先生、永らくの御疎遠御赦御願申します。

其の後御変りありませんか。善一奴も元氣旺盛

横川目の獣医高橋定実少佐殿と同所にて、

昨一二月より御奉公申して居ります。高橋少佐殿は

稲葉今は亡き藤右エ門殿の愛妻の実家(弟)

との事にて御座ります。種々と御厄介になってゐます。

千葉軍層殿と暫く別れてゐます。然し

属するは同じですが稀に会はれますが、

仲々の元氣にて御座ります。尚伊藤林之助君

事上^{上等}下兵となられたらしく、石川与四郎君とは仲々会へぬ。

住所は知ってゐませんが、尚菊池茂民氏弟君

仲々の元氣にて御奉公申して居ります。

65【はがき―軍事郵便】

岩手県和賀郡藤根村後藤

高橋峰次郎様

北支派遣将第一四六〇部隊

高橋(慶)隊 高橋善一

【はがき裏】

益々憎らしい赤鬼やってきました。然しくなんの

恐るる事ありませうや。誠に又古来伝統の

「肉を切らして骨を砕く」の戦法あり。又我精神あり。

然し事今こそ未曾有の大難事と申して可なりでせう。

大いに頑張ります。必ず勝つべく。

さて又思ひ出しました。高橋安雄（長沼）元気で頑張つてゐます。一〇月^{（上等）}上下兵となりたる由又

会ひました。さて忘れて後になりましたが、石川与四郎君

体の具合悪く約三ヶ月医療して居りました

るも全快、今は平気なる故養治君へ御伝へ

願ひます。では乱筆致しました。

銃後とばかり言われぬ内地戦線での御武運長久

御祈り申します。

66【はがき―軍事郵便】

岩手県和賀郡

藤根村後藤

高橋 峰 次 郎 様

北支派遣将第一四六〇部隊高橋（慶）隊

高橋善一

【はがき裏】

明けましておめでたう御座ゐます。

先生、今年も御願致します。御陰様を以ちまして、

元氣旺盛にて聖戦下の新春を迎えました。内地も

戦場化しました。最近の情勢如何なる御新春を迎へられ

ましたる事にて御座ゐませうや、御伺申上ます。

千葉軍曹も元氣旺盛にて新春を迎へられましたる由

御安心下さい。弱輩暫らく千葉軍曹と別れました。

然し籍は一諸ですが、尚爾今御尊書

を下さる際は表記へ御願申します。

年に一つ一つとった筈ですのにもうあと一年にて三〇

にならんとしてゐます。早いもんですね。

先生もやっぱり年老ひられた事でせうが、どうやら追付きさうな気がします。銃後の情勢御願します。

67【はがき表】

岩手県和賀郡

藤根村後藤

高橋 峰 次 郎 様

山梨県甲府市

東部第六三部隊西山隊

高橋善一

【はがき裏】

拝啓、先日はいろ／＼と有難ふ御座ゐ

ました。御陰様を以ちまして路中無事

再び元氣旺盛御奉公申して居ります。

なつかしい山や川、そして親切な郷の人々、

なつかしい日を送りました。先生にはいろ／＼

と楽しい話そして又何よりの御馳走に

相成り三ヶ年の鋭氣更に取戻し、

心機一転更に懸命の御奉公申します。

こんな楽しい国です。なんで戦争に負け

られませうか。必ず勝ちます。では先生

今日はこれにて失礼致します。祈御壮健

（北上市農林部、国立歴史民俗博物館共同研究員）

（二〇〇二年四月三〇日受理、二〇〇二年六月二八日審査終了）

No	消印	日付	発信地	発信時の所属	形式 ◎は軍事郵便	検閲欄	内 容
1	昭和一三・八・三	昭和一二・一二・一	東京市赤坂区	近衛歩兵第三聯隊第七中隊一班	はがき (年賀状)	入隊し軍隊生活の第一歩を踏み出した。	入隊し軍隊生活の第一歩を踏み出した。
2	昭和一三・一・一	昭和一二・一二・一	東京市赤坂区	近衛歩兵第三聯隊第七中隊一班	はがき (年賀状)	新年の挨拶。	新年の挨拶。
3	昭和一三・一・二四		東京市赤坂区	近衛歩兵第三聯隊第七中隊二班	はがき	東京の兵営生活、入営から今までの大要について。	東京の兵営生活、入営から今までの大要について。
4	昭和一三・四・一四	昭和一二・四・一〇	東京市赤坂区	近衛歩兵第三聯隊第七中隊二班	封書	軍務に努力している。高峯からお守りをもらった。	軍務に努力している。高峯からお守りをもらった。
5	昭和一三・五・二		東京市赤坂区	近衛歩兵第三聯隊第七中隊二班	はがき	富士演習も無事終了し、小田原、箱根をとり帰ってきた。	富士演習も無事終了し、小田原、箱根をとり帰ってきた。
6	昭和一三・六・五		東京市赤坂区	近衛歩兵第三聯隊第七中隊二班	はがき	降雨で東京も相当損害を受けた。毎日戸山射撃場に行っている。	降雨で東京も相当損害を受けた。毎日戸山射撃場に行っている。
7	昭和一三・七・二		東京市赤坂区	近衛歩兵第三聯隊第七中隊二班	はがき	暑中見舞い、毎日戸山射撃場で練習。	暑中見舞い、毎日戸山射撃場で練習。
8	昭和一三・七・二四か		東京市赤坂区	近衛歩兵第三聯隊第七中隊二班	はがき	先頃習志野に行つた。第二回目の富士裾野演習に行く。	先頃習志野に行つた。第二回目の富士裾野演習に行く。
9	昭和一三・八・九		東京市赤坂区	近衛歩兵第三聯隊第七中隊二班	はがき	富士演習で七合目まで登つた。そして無事帰營した。今は毎日剣術の練習。	富士演習で七合目まで登つた。そして無事帰營した。今は毎日剣術の練習。
10	昭和一三・八・二二		東京市赤坂区	近衛歩兵第三聯隊第七中隊二班	はがき	自分及び同郷の戦友の近況報告。	自分及び同郷の戦友の近況報告。
11	昭和一三・九・一四		東京市赤坂区	近衛歩兵第三聯隊第七中隊二班	はがき	後藤野飛行場献納をニュースで知つた。一月四日から秋季演習が始まる。	後藤野飛行場献納をニュースで知つた。一月四日から秋季演習が始まる。
12	昭和一三・一〇・七		東京市赤坂区	近衛歩兵第三聯隊第七中隊二班	はがき	岩手日報送付お礼、新兵の一年が過ぎた。また新兵が入隊してきた。来週大本営衛兵勤務。	岩手日報送付お礼、新兵の一年が過ぎた。また新兵が入隊してきた。来週大本営衛兵勤務。
13	昭和一三・一二か		東京市赤坂区	近衛歩兵第三聯隊第七中隊二班	はがき	年賀状、入隊し二年目を迎えた。	年賀状、入隊し二年目を迎えた。
14	昭和一四・一・一	昭和一四・一・一	東京市赤坂区	近衛歩兵第三聯隊第七中隊二班	はがき (年賀状)	習志野に来て演習。	習志野に来て演習。
15	昭和一四・三・六		千葉県習志野	近衛歩兵第三聯隊第七中隊二班	はがき	桜も散り始めた。師団長の検閲、伊藤武治君より便りあり。	桜も散り始めた。師団長の検閲、伊藤武治君より便りあり。
16	昭和一四・四・一五		東京市赤坂区	近衛歩兵第三聯隊第七中隊二班	はがき	高橋、石田の両名と上野公園見物に行く。	高橋、石田の両名と上野公園見物に行く。
17	昭和一四・四・一九		東京市赤坂区	近衛歩兵第三聯隊第七中隊二班	はがき	天長節の大観兵式に参加した。下志津へ出張した。	天長節の大観兵式に参加した。下志津へ出張した。
18	昭和一四・五・二		千葉県下志津	近衛歩兵第三聯隊第七中隊二班	はがき	真友送付お礼。事変勃発記念演習に参加した。郷里出身の戦友の動向。	真友送付お礼。事変勃発記念演習に参加した。郷里出身の戦友の動向。
19	昭和一四・七・一七		東京市赤坂区	近衛歩兵第三聯隊第七中隊二班	封書	第一線で早く活躍したい。	第一線で早く活躍したい。
20	昭和一四・八・二四	昭和一四・八・二二	東京市赤坂区	近衛歩兵第三聯隊第七中隊二班	封書	聯隊に伝染病続出した。大久保の射撃場で憲兵の伊藤君に会った。	聯隊に伝染病続出した。大久保の射撃場で憲兵の伊藤君に会った。
21	昭和一四・九・一四	昭和一四・九・一三	東京市赤坂区	近衛歩兵第三聯隊第七中隊二班	封書	真友送付お礼、屯営の近況報告、師団狙撃競技の練習。	真友送付お礼、屯営の近況報告、師団狙撃競技の練習。
22	昭和一四・九・二五	昭和一四・九・二四	東京市赤坂区	近衛歩兵第三聯隊第七中隊二班	封書	秋季演習のため静岡、山梨県へ出発する報告。	秋季演習のため静岡、山梨県へ出発する報告。
23	昭和一四・一〇・二九		東京市赤坂区	近衛歩兵第三聯隊第七中隊二班	はがき	静岡での演習の様子。	静岡での演習の様子。
24	昭和一四・一一・二		静岡県高岡村	小野部隊石動隊	はがき	帰省先から無事屯舎へ帰つて来た。他隊へ配属される報告。	帰省先から無事屯舎へ帰つて来た。他隊へ配属される報告。
25	昭和一四・一一・一五		東京市上野	近衛歩兵第一二大隊本部	はがき	帰省中のお礼。近衛歩兵第一へ転属した。笠間部隊へ属した。南支へ行く準備をしている。	帰省中のお礼。近衛歩兵第一へ転属した。笠間部隊へ属した。南支へ行く準備をしている。
26	昭和一四・一一・二五		東京市九段		封書	東京から来て広島の旅館に泊した。そして船で戦地へ向かう。	東京から来て広島の旅館に泊した。そして船で戦地へ向かう。
27	昭和一四・一一・三〇		広島県宇品港	於宇品	はがき	滝口丸に乗って南支の大陸に第一歩を踏んだ。支那部落の様子。	滝口丸に乗って南支の大陸に第一歩を踏んだ。支那部落の様子。
28	昭和一四・一二か		南支	桜田部隊牛嶋部隊笠間部隊本部	封書◎	支那の最新線にきた。支那の様子。	支那の最新線にきた。支那の様子。
29	昭和一四・一二・一八か		南支	桜田部隊牛嶋部隊笠間部隊本部	絵はがき◎	任地到着の挨拶。	任地到着の挨拶。
30	昭和一四・一二・二八か		南支	桜田部隊牛嶋部隊笠間部隊本部	はがき◎	戦地の状況、戦場での食糧不足に困つた。負けた国の哀れさを見せつけられた。	戦地の状況、戦場での食糧不足に困つた。負けた国の哀れさを見せつけられた。
31	なし	昭和一五・一・七	南支	桜田部隊牛嶋部隊笠間部隊本部	封書◎	真友送付お礼、真友で村の様子や戦友仲間の様子を知らることができた。	真友送付お礼、真友で村の様子や戦友仲間の様子を知らることができた。
32	なし	昭和一五・四・二五	南支	桜田部隊鈴木部隊一駒部隊本部	封書◎	検閲済	検閲済

59	58	57	56	55	54	53	52	51	50	49	48	47	46	45	44	43	42	41	40	39	38	37	36	35	34	33
なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	昭和 一七・四か	昭和 一六・一か	なし	なし	昭和 一五・八・二か	昭和 一五・八・二か	なし	なし
昭和 一九・六か	昭和 一九か	昭和 一九・六か	昭和 一九か	昭和 一九・一か	昭和 一九・一か	昭和 一九・一か	昭和 一八・一二か	昭和 一八・八か	昭和 一八・七か	昭和 一八・四か	昭和 一八・三か	昭和 一八・一か	昭和 一八・一か	昭和 一八・一か	昭和 一七・一〇か	昭和 一七・一〇か	昭和 一七・八か	昭和 一七・七か	昭和 一七・四・八	昭和 一六・一・三	昭和 一五・一二・三	昭和 一五・一二・三	昭和 一五・八・二か	昭和 一五・七・二九	昭和 一五・六・一九	昭和 一五・六・一九
北支	北支	北支	北支	北支	北支	北支	北支	北支	北支	北支	北支	北支	北支	北支	北支	北支	北支	北支	不明	東京市	東京市 芝浦	東京市 芝浦	南支	南支	南支	南支
将第一四六三部隊布施隊(教)	将第一四六三部隊布施隊(教)	将第一四六三部隊布施隊(教)	将第一四六三部隊小野寺隊	勝第五二二八部隊萬隊	勝第五二二八部隊萬隊	勝第五二二八部隊萬隊	勝第五二二八部隊萬隊	勝第五二二八部隊五十嵐隊	勝第五二二八部隊五十嵐隊	勝第五二二八部隊五十嵐隊	勝第五二二八部隊五十嵐隊	勝第五二二八部隊五十嵐隊	勝第五二二八部隊五十嵐隊	勝第五二二八部隊五十嵐隊	勝第五二二八部隊五十嵐隊	勝第五二二八部隊五十嵐隊	勝第五二二八部隊五十嵐隊	勝第五二二八部隊五十嵐隊	勝第五二二八部隊五十嵐隊	勝第五二二八部隊五十嵐隊	勝第五二二八部隊五十嵐隊	飯田部隊鈴木本部	飯田部隊鈴木本部	飯田部隊鈴木本部	飯田部隊鈴木本部	飯田部隊鈴木本部
はがき◎	はがき◎	はがき◎	はがき◎	はがき◎	はがき◎	はがき◎	はがき◎	はがき◎	はがき◎	はがき◎	はがき◎	はがき◎	はがき◎	はがき◎	はがき◎	はがき◎	はがき◎	はがき◎	はがき◎	はがき◎	はがき◎	はがき◎	はがき◎	はがき◎	はがき◎	はがき◎
検閲済	検閲済	検閲済	検閲済	検閲済	検閲済	検閲済	検閲済	検閲済	検閲済	検閲済	検閲済	検閲済	検閲済	検閲済	検閲済	検閲済	検閲済	検閲済	検閲済	検閲済	検閲済	検閲済	検閲済	検閲済	検閲済	検閲済
軍人で面白い心境になるものだ。	石川と四郎、伊藤林之助両名と一緒にいる。家の夢は全然見ない。	北支もすっかり夏になり、小麦も黄金色になった。伊藤林之助、石川と四郎君は元気である。	戦間期近かにつき送信断りの連絡。	石川と四郎、伊藤林之助両君に面会。以後一緒にいる。二人の上司である。	北支もすっかり夏になり、小麦も黄金色になった。伊藤林之助、石川と四郎君は元気である。	北支もすっかり夏になり、小麦も黄金色になった。伊藤林之助、石川と四郎君は元気である。	北支もすっかり夏になり、小麦も黄金色になった。伊藤林之助、石川と四郎君は元気である。	北支もすっかり夏になり、小麦も黄金色になった。伊藤林之助、石川と四郎君は元気である。	北支もすっかり夏になり、小麦も黄金色になった。伊藤林之助、石川と四郎君は元気である。	北支もすっかり夏になり、小麦も黄金色になった。伊藤林之助、石川と四郎君は元気である。	北支もすっかり夏になり、小麦も黄金色になった。伊藤林之助、石川と四郎君は元気である。	北支もすっかり夏になり、小麦も黄金色になった。伊藤林之助、石川と四郎君は元気である。	北支もすっかり夏になり、小麦も黄金色になった。伊藤林之助、石川と四郎君は元気である。	北支もすっかり夏になり、小麦も黄金色になった。伊藤林之助、石川と四郎君は元気である。	北支もすっかり夏になり、小麦も黄金色になった。伊藤林之助、石川と四郎君は元気である。	北支もすっかり夏になり、小麦も黄金色になった。伊藤林之助、石川と四郎君は元気である。	北支もすっかり夏になり、小麦も黄金色になった。伊藤林之助、石川と四郎君は元気である。	北支もすっかり夏になり、小麦も黄金色になった。伊藤林之助、石川と四郎君は元気である。	北支もすっかり夏になり、小麦も黄金色になった。伊藤林之助、石川と四郎君は元気である。	北支もすっかり夏になり、小麦も黄金色になった。伊藤林之助、石川と四郎君は元気である。	北支もすっかり夏になり、小麦も黄金色になった。伊藤林之助、石川と四郎君は元気である。	北支もすっかり夏になり、小麦も黄金色になった。伊藤林之助、石川と四郎君は元気である。	北支もすっかり夏になり、小麦も黄金色になった。伊藤林之助、石川と四郎君は元気である。	北支もすっかり夏になり、小麦も黄金色になった。伊藤林之助、石川と四郎君は元気である。	北支もすっかり夏になり、小麦も黄金色になった。伊藤林之助、石川と四郎君は元気である。	

67	66	65	64	63	62	61	60
なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
昭和二〇・七か	昭和二〇・一・一か	昭和一九・一〇か	昭和一九か	昭和一九・一〇か	昭和一九・一〇か	昭和一九・七か	昭和一九・七か
山梨県甲府市	北支	北支	北支	北支	北支	北支	北支
東部第六三部隊西山隊	将第一四六〇部隊高橋（慶）隊	将第一四六〇部隊高橋（慶）隊	将第一四六〇部隊高橋（慶）隊	将第一四六三部隊萬隊	将第一四六三部隊萬隊	将第一四六三部隊布施隊（教）	将第一四六三部隊布施隊（教）
はがき	はがき◎	はがき◎	はがき◎	はがき◎	はがき◎	はがき◎	はがき◎
検閲済	検閲済	検閲済	検閲済	検閲済	検閲済	検閲済	検閲済
甲府に無事到着し、一生懸命に奉公している。	葉軍曹も元氣だが暫く別れた。	新年を迎え、来年三〇才になる。銃後のことを知らせてほしい。千	一〇月上等兵になった高橋安雄にまた会った。石川与四郎全快した。増らしい赤鬼やつてきた。	君上等兵になる。千葉軍曹と暫く別れている。	昨年一二月より横川目の高橋定実少佐と同じ隊である。伊藤林之助がうるさいと聞いた。	村の様子を教えてほしい。高橋安雄元氣とのこと。内地も赤トンボ	伊藤林之助、石川与四郎立派な一人前になった。田鎖叶君も元氣である。伊藤君の妻君の処置たのむ。